【雑誌広告デジタル送稿】
「JMPAカラー準拠フルデータ」
デジタル制作ガイド

Mac OS X / Illustrator CS2（12.0.xJ）対応版

（Illustrator CS（11.0.1J）/10.0.3J）

雑誌広告デジタル送稿推進協議会

（社）日本雑誌協会　（社）日本雑誌広告協会　（社）日本広告業協会

2007年4月1日 改訂

はじめに

　2004年7月28日、社団法人日本雑誌協会、社団法人日本雑誌広告協会、社団法人日本広告業協会の3協会は、雑誌広告のデジタル送稿を推進するために「雑誌広告デジタル送稿推進協議会」を設立した。
「雑誌媒体の価値を向上させることを目的とし、『雑誌広告デジタル送稿に関する諸課題』についての解決策を協議・策定し、3協会及び関連する方々に発信する。」ことを活動の目的と指針としている。
　本デジタル制作ガイド、【雑誌広告デジタル送稿】「JMPAカラー準拠フルデータ」デジタル制作ガイド Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版は、JMPAカラーに準拠したデジタルプルーフを活用した「JMPAカラー準拠フルデータ」送稿の推進により、色校正の前工程への戻りをなくしたワンウェイのデジタルワークフロー「デジタル校了」の普及を目的に改訂されたものである。

雑誌広告デジタル送稿推進協議会
(社)日本雑誌協会 (社)日本雑誌広告協会 (社)日本広告業協会

CONTENTS

1.JMPAカラーとは何か?

**2.JMPAカラー準拠
フルデータ制作 基本５項目**

- ①デジタル校了が前提!
- ②最終送稿データは製版会社で作成!
- ③色管理の定義!
- ④運用事例!
- ⑤送稿(入稿)3点セットは必須!

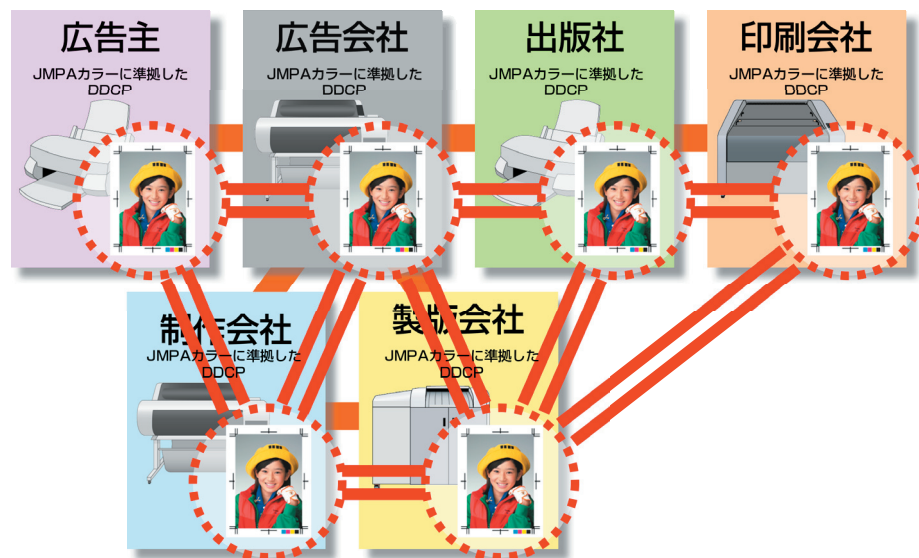
**3.JMPAカラー準拠
フルデータ制作ルール詳細**

- ①Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版

1.JMPAカラーとは何か？

JMPAカラー(雑誌広告基準カラー)とは、

雑誌広告の制作から印刷にいたる全てのフローにおいて、デジタルプルーフを運用するための「色基準」のことです。つまり、雑誌広告であれば、それに関わるどのプレイヤーでも同じ色見本を出せるための必須条件です。 JMPAカラーを運用することによって、それぞれにバラバラな運用がされていた「色見本」をある一定の範囲内で共通に取り扱うことが可能となり、広告業界全体のワークフロー改善につながることを目的としています。

<イメージ図>

【特徴】

1.印刷会社3社の本機印刷をシミュレーション

日本で発行されている雑誌のほぼ9割を印刷している共同印刷、大日本印刷、凸版印刷の本機印刷をシミュレーションしたDDCPによる色基準の最大公約数をターゲットとしており、「どこで印刷してもほぼ同等の色調が得られる」基準になっている。 つまりこの「JMPAカラー準拠DDCP」がそのまま印刷会社の色見本となることが特徴となっている。

2.JMPAカラーベンダーキット

人物、静物、風景等の自然画像4点を標準画像として選定し、さらに標準チャートとして、ISO12642（IT8.7/3）、928パッチと、測色評価用専用チャートとして「JMPAカラー色パッチ428パッチ」の合計1,356パッチについて、その色調をDDCPで定義。 製版・印刷会社、メーカー・ベンダーの色変換テーブル作成用として想定され、(社)日本雑誌協会より頒布している。

3.JMPAカラーリファレンスキット

「JMPAカラー対応DDCP/プリンタ」を購入したユーザーがDDCP/プリンタを管理及び確認するためのキット。 標準画像4点のDDCPと同データをセットにし、製版会社、印刷会社等にメーカー・ベンダー各社経由で販売（頒布）している。

4.色管理の許容幅

一般の標準規格とは異なり、色の許容幅を規定していない。 色調に関する許容幅は、雑誌広告を出稿する広告主の意図や要望によって、あるいは広告原稿の内容で大きく変わってくると考え、広告主了解のもとで取り決める事項として定義されている。 つまり、どこまで色調が合えば「JMPAカラー準拠」が謳えるかという条件は自ら設定する必要があり、あくまでもビジネスの場で取り決められるのが妥当としている。

2.JMPAカラー準拠フルデータ制作 基本5項目

①デジタル校了が前提!

「JMPAカラー準拠フルデータ」送稿の運用は「デジタル校了」を前提とし、
データが行ったきりのワンウェイのフローが原則となるので、データの確認、色見本の精度など運用に関しては注意が必要。

②最終送稿データは製版会社で作成!

「JMPAカラー準拠フルデータ」は「JMPAカラー準拠フルデータ制作ルール」に則り、製版会社で作成する事が前提となる。

③色管理の定義!

広告主を中心とした制作サイドと、出版社を中心した印刷サイドの両サイドで「JMPAカラーに準拠した色管理の許容幅」を事前に確認し、
広告主了承のもと、色管理責任を明確にする。
「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」で「JMPAカラー準拠DDCP色見本」の恒常性維持および管理を行う。

④運用事例!

「JMPAカラー準拠DDCP」は「JMPAカラーベンダーキット」により作成され、「JMPAカラーリファレンスキット」で管理および確認する。

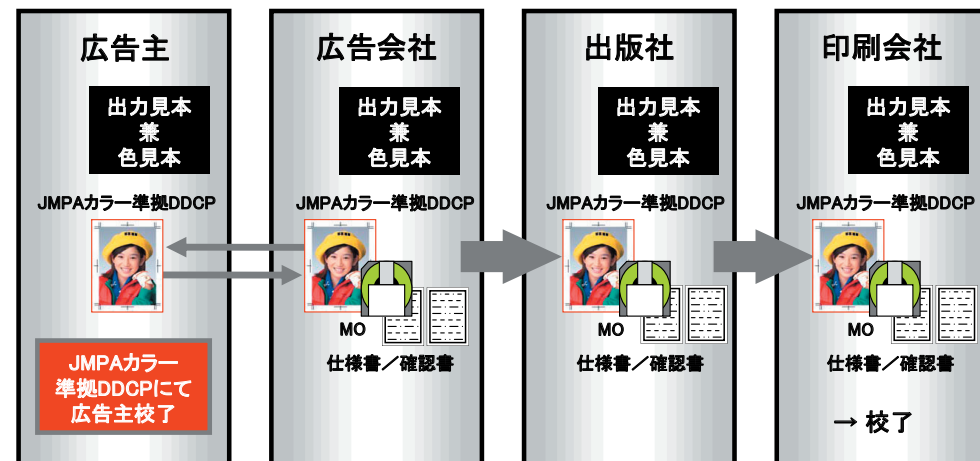
⑤送稿(入稿)3点セットは必須!

1.送稿メディア(MOまたはCD-R)
2.出力見本(最終送稿データからの出力物)
3.【雑誌広告デジタル送稿】JMPAカラー準拠フルデータ仕様書/確認書

2-①.JMPAカラーはデジタル校了が前提!

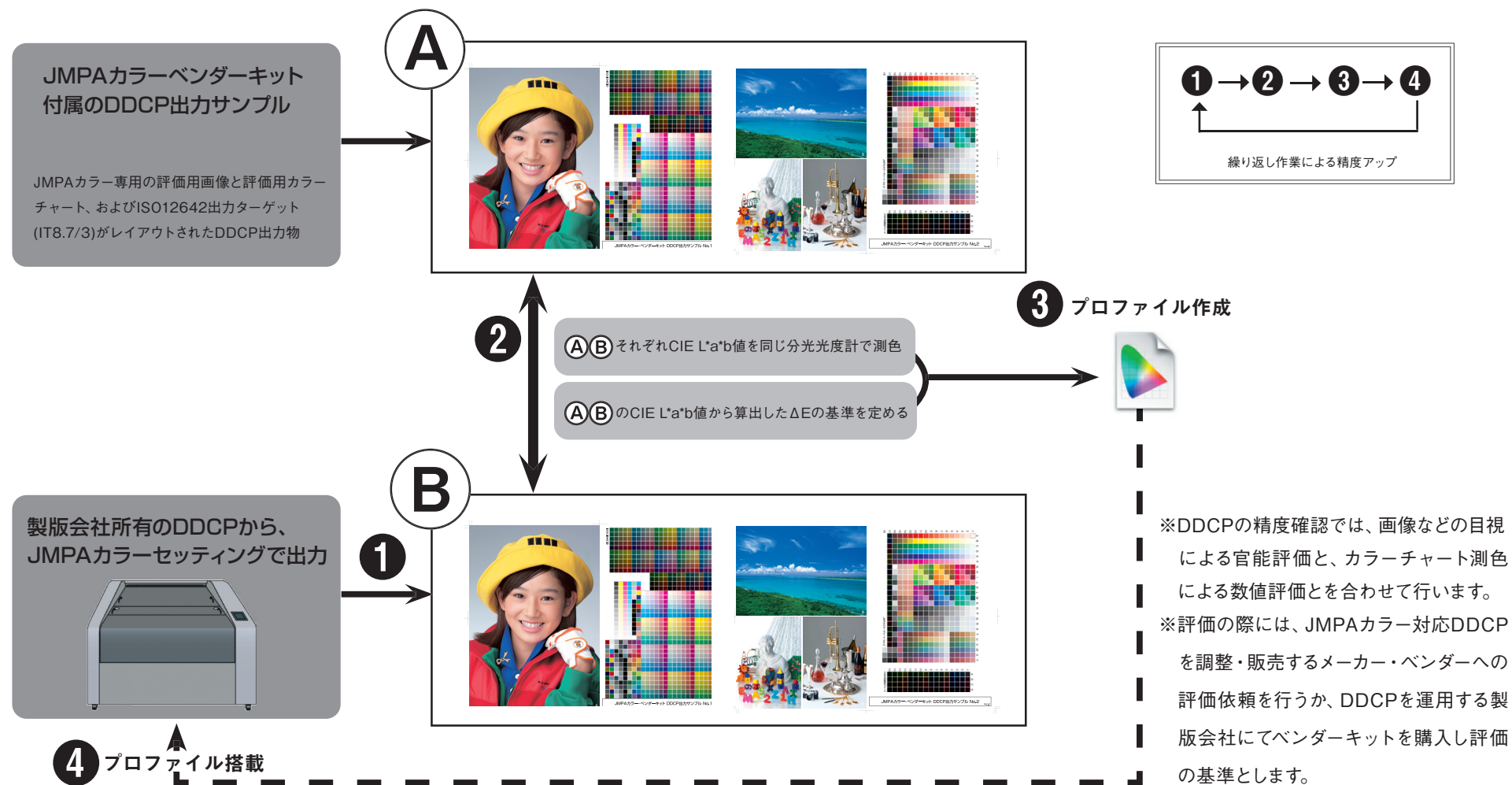
「JMPAカラー準拠フルデータ」送稿の運用は「デジタル校了」を前提とし、
データが行ったきりのワンウェイのフローが原則となるので、
データの確認、色見本の精度など運用に関しては注意が必要。

【JMPAカラー準拠のデジタル校了】

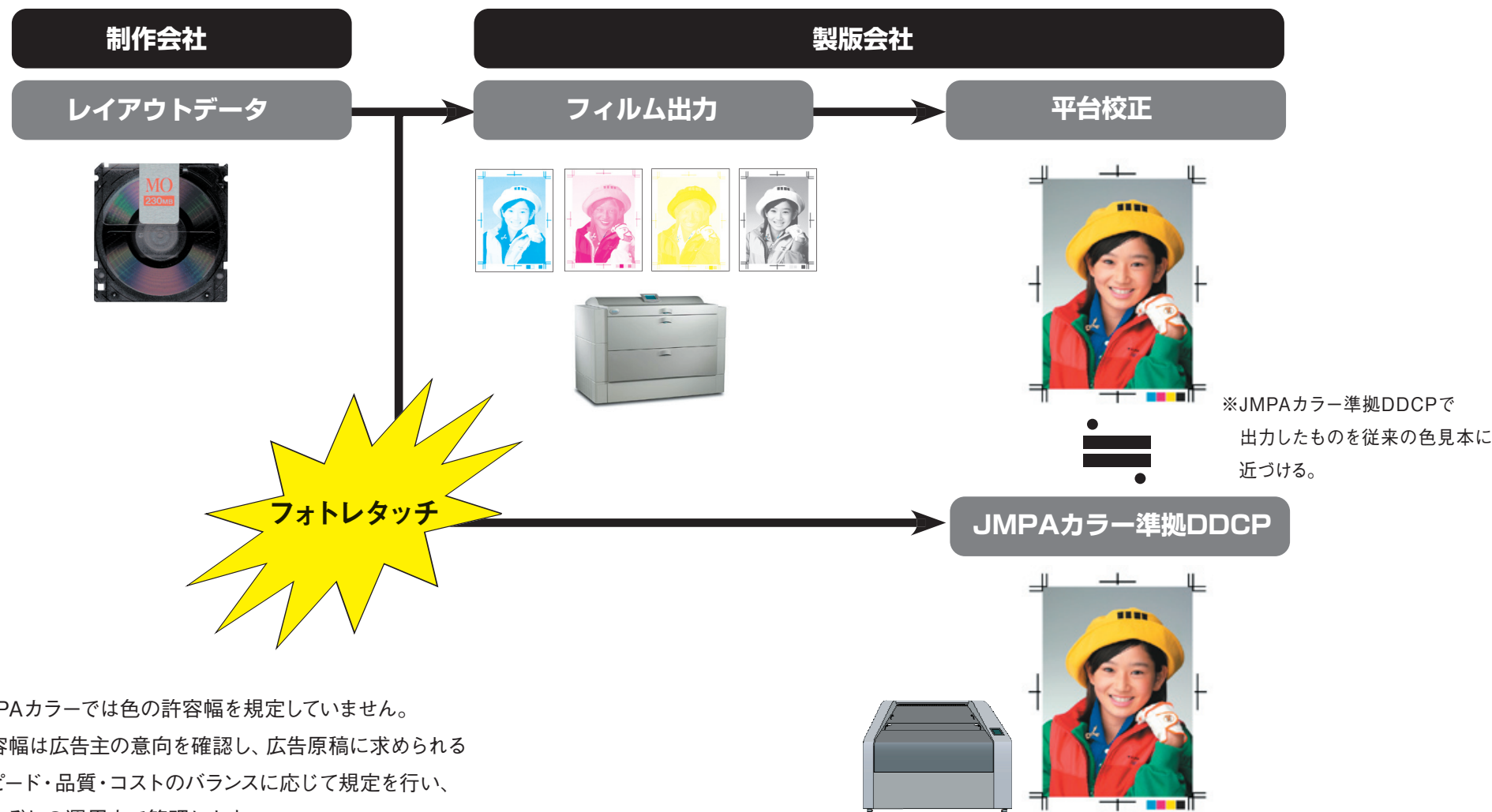
JMPAカラー準拠の色基準に色調を合わせ、安定性に優れたDDCPを色見本として印刷することにより、最終印刷物の色調がこのDDCPで確認できる。従来行っていた、色校正を印刷会社が作成し、出版社,広告会社、広告主といった前工程に戻す必要のない、ワンウェイのワークフローが実現できる。 結果、余分なコストだけでなく、時間も短縮されるので、結果として入稿から印刷まで現状の40日前入稿を最大で14日前まで短縮することも可能となっている。

2-②-1.JMPAカラーに準拠した最終送稿データは製版会社で作成！

製版会社の環境を整える。

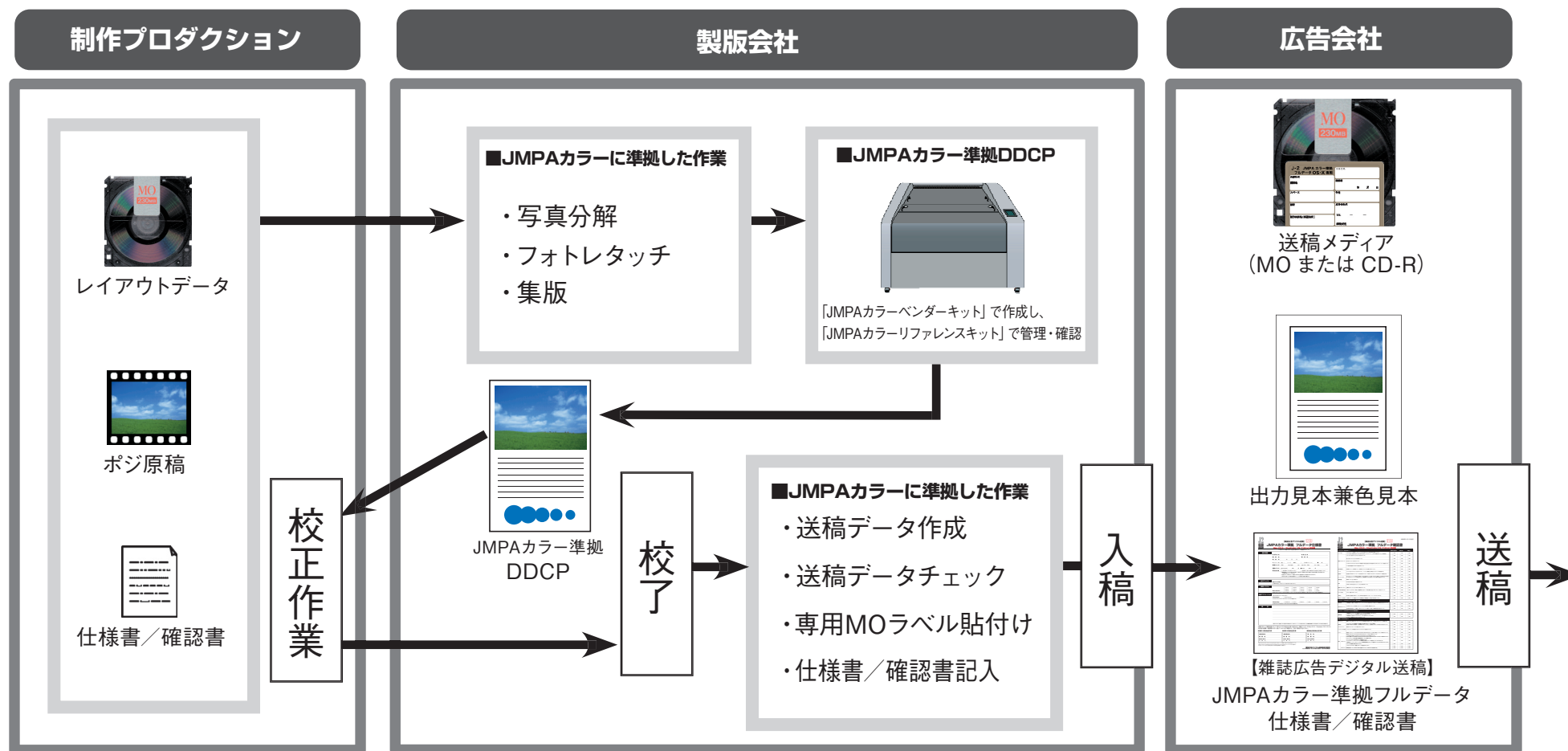
※DDCPの精度確認では、画像などの目視による官能評価と、カラーチャート測色による数値評価とを合わせて行います。

※評価の際には、JMPAカラー対応DDCPを調整・販売するメーカー・ベンダーへの評価依頼を行うか、DDCPを運用する製版会社にてベンダーキットを購入し評価の基準とします。

2-②-2.JMPAカラーに準拠した最終送稿データは製版会社で作成！

JMPAカラーに準拠したフォトレタッチを行う。

※JMPAカラー準拠DDCPで
出力したものを従来の色見本に
近づける。

※JMPAカラーでは色の許容幅を規定していません。
許容幅は広告主の意向を確認し、広告原稿に求められる
スピード・品質・コストのバランスに応じて規定を行い、
それぞれの運用上で管理します。

2-②-3.JMPAカラーに準拠した最終送稿データは製版会社で作成！

「JMPAカラー準拠フルデータ制作ルール」に則り、製版会社で作成する事が前提となる。

2-③-1.JMPAカラーに準拠した色管理の定義！

【雑誌広告デジタル送稿】
「JMPA カラー準拠フルデータ」送稿ワークフロー
運用ガイドライン（導入編）
2006年4月1日改訂

■ 「JMPAカラー準拠フルデータ」送稿運用の基本

1.雑誌広告「JMPAカラー準拠フルデータ」デジタル送稿ワークフローは、広告会社から出版社へワンウェイで送稿する「デジタル校了」が基本となる。
2.「JMPAカラー準拠DDCP色見本」添付の有無は、「JMPAカラー準拠フルデータ」デジタル送稿ワークフロー運用を実施する広告主に委ねられる。
3.「JMPAカラーに準拠した色管理の許容幅」は、「JMPAカラー準拠フルデータ」デジタル送稿ワークフロー運用を実施する広告主に委ねられる。※
※(社)日本雑誌協会が「JMPAカラー(雑誌広告基準カラー)」策定時に定義。

■ 導入時の留意事項:「色管理の許容幅」

1.広告主を中心とした制作サイドで「JMPAカラーに準拠した色管理の許容幅」を定め、制作サイドの色管理責任を明確にする。
2.出版社を中心とした印刷サイドで、広告主を中心として定められた「JMPAカラーに準拠した色管理の許容幅」の確認および事前検証を行い、
印刷サイドの色管理責任を明確にする。
3.広告主を中心とした制作サイドと、出版社を中心とした印刷サイドの両サイドで「JMPAカラーに準拠した色管理の許容幅」を事前に確認し、
広告主の了承のもと色管理責任を明確にする。

＜注意事項＞
「JMPAカラー準拠フルデータ」送稿の開始時は、「JMPAカラー準拠DDCP色見本」を添付する運用を推奨する。
出版社への印刷色見本である「JMPAカラー準拠DDCP色見本」添付を全く行わないワークフローを実施する場合は、出版社への事前確認を必ず行う。
この場合、制作サイドの「JMPAカラー準拠DDCP色見本」運用における色管理の「許容幅」が重要なキーポイントとなる。

■JMPAカラーベンダーキット

●JMPAカラーベンダーキットとは

JMPAカラーに準拠したDDCP/プリンタの開発に必要な情報を1つのパッケージにしたプリンタメーカー、ベンダー、製版機器メーカーなどを対象にした開発用キットです。

●収録内容

JMPAカラー専用の評価用画像と評価用カラーチャート、およびISO12642出力ターゲット(IT8.7/3)がレイアウトされた、DDCP出力物・データの入ったCD-ROM・取り扱い説明書から構成されています。

●それぞれの概要と目的

1.JMPAカラーによるDDCP出力サンプル

・JMPAカラーによるA3トンボ付きサイズの2種類のDDCP出力物です。

・基準カラーのターゲットとなります。測色および官能評価用にご使用ください。

・4種類の自然画像および2種類のカラーチャートがレイアウトされています。

1-1 JMPAカラー専用の官能評価用自然画像

1.1.1 Photo-A・・・少女(人肌、グレーなどの中間色および原色系の確認用

1.1.2 Photo-B・・・風景(空、海、緑など記憶色の確認用)

1.1.3 Photo-C・・・石膏像(淡いトーンおよび様々な色彩の確認用)

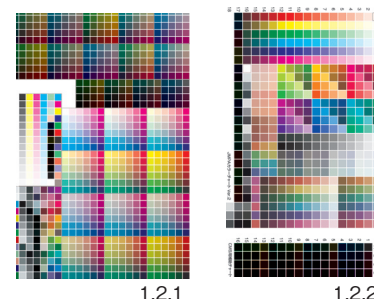
1.1.4 Photo-D・・・金属(グレーおよびコントラストの高い金属類の確認用)

1-1

1-2 カラーチャート

1.2.1 ISO12642出力ターゲット(IT8.7/3)

1.2.2 JMPAカラー専用測色評価用カラーチャート(428パッチ)

1.2.1　1.2.2

2.評価用データを納めたCD-ROM

・DDCP出力物に使用されたレイアウトデータがEPS形式で収められています。

・カラーマッチング評価用出力データとしてご使用ください。

・4種類の自然画像および2種類のカラーチャートの画像データが含まれています。

3.取扱説明書／使用許諾契約書

・JMPAカラーベンダーキットの目的、使用範囲、アウトプットの配布、保証の範囲、推奨保存方法などについて明記されています。

2-③-3

■ JMPAカラーリファレンスキット

●JMPAカラーリファレンスキットとは

JMPAカラー対応DDCP/プリンタを購入したユーザーが、出力時に確認するためのツール。
製版会社、印刷会社等の、JMPAカラー対応DDCP/プリンタユーザーを対象としたキット。

●収録内容

JMPAカラー専用の評価用画像と評価用カラーチャートがレイアウトされたDDCP出力物(A4・2種類)で構成されています。

●JMPAカラーリファレンスキットの用途

・JMPAカラー対応DDCP/プリンタが、JMPAカラーで出力されているかどうか目視確認するためのツール。
・JMPAカラー対応DDCP/プリンタのキャリブレーションを行うため、JMPAカラーの整合性を目視確認するためのツール。

●販売(頒布)形態

A) JMPAカラー出力サンプル+データ複製権
B) JMPAカラー出力サンプル+CD-R
C) JMPAカラー出力サンプルのみ

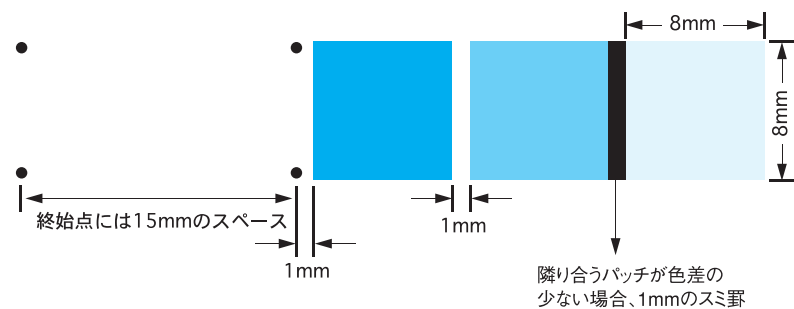
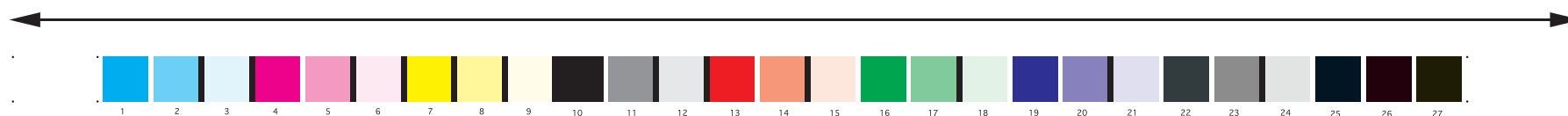
●販売(頒布)方式

・基本的に、ベンダーキットを購入したメーカー・ベンダーへの販売のみとする。
・ただし、各メーカー・ベンダーからユーザーへの再販は、これを許可します。
・サポートに関しては日本雑誌協会では行いません。
(内容物破損等の不具合対応は除く)

2-③-4

■ 導入時の留意事項:「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」

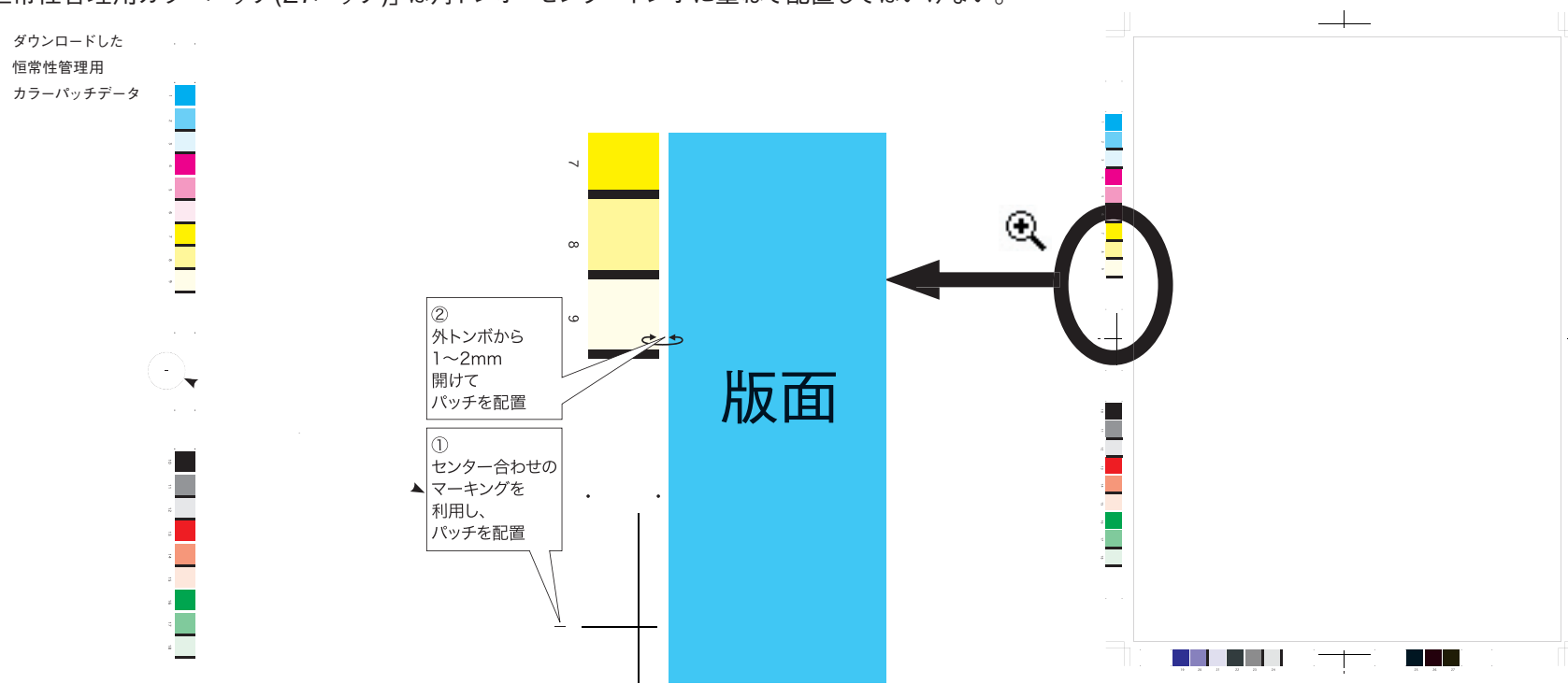
1.「JMPAカラー準拠DDCP色見本」は、制作サイドで定めた「JMPAカラーに準拠した色管理の許容幅」で安定的に出力する。
2.「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」で「JMPAカラー準拠DDCP色見本」の恒常性維持および管理を行う。
3.「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」は、最終送稿データを作成する製版会社がデータに貼付し、必要に応じて制作サイド、または印刷サイドで測色を行う。

●基本スケール

パッチNo.	C	M	Y	K	パッチNo.	C	M	Y	K
1	100	0	0	0	15	0	10	10	0
2	50	0	0	0	16	100	0	100	0
3	10	0	0	0	17	50	0	50	0
4	0	100	0	0	18	10	0	10	0
5	0	50	0	0	19	100	100	0	0
6	0	10	0	0	20	50	50	0	0
7	0	0	100	0	21	10	10	0	0
8	0	0	50	0	22	100	94	94	0
9	0	0	10	0	23	50	41	41	0
10	0	0	0	100	24	10	7	7	0
11	0	0	0	50	25	40	0	0	100
12	0	0	0	10	26	0	40	0	100
13	0	100	100	0	27	0	0	40	100
14	0	50	50	0					

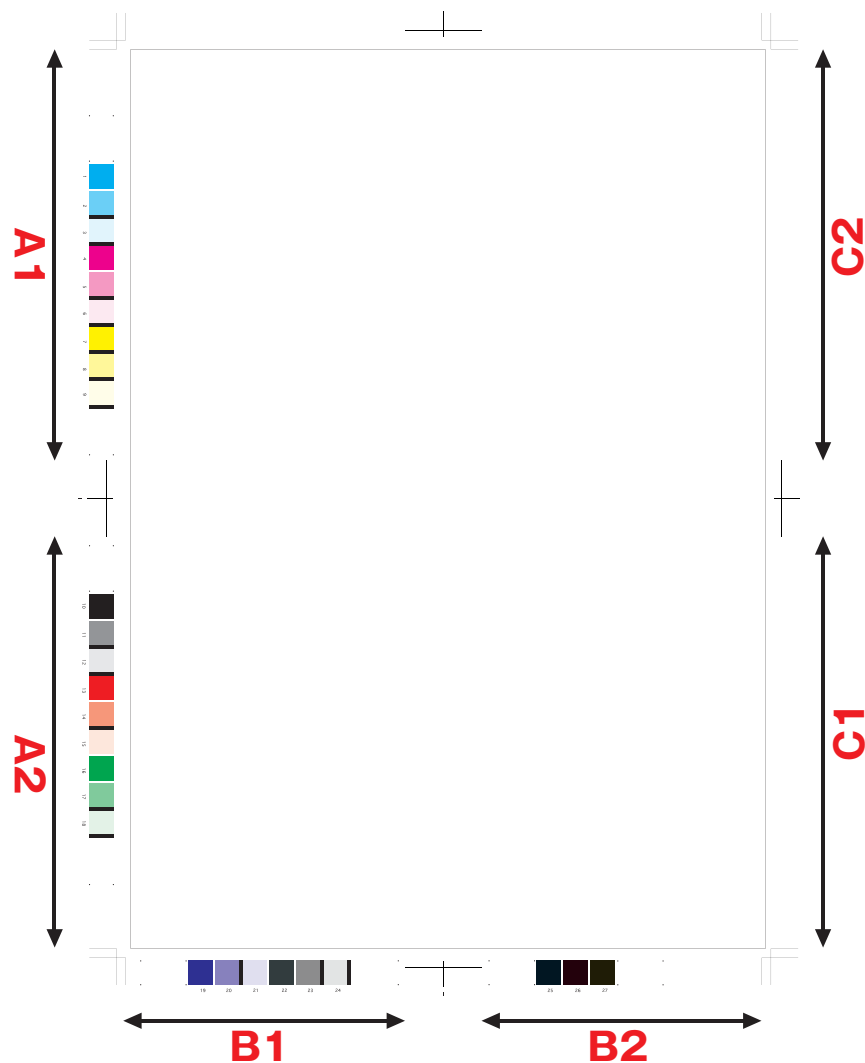
2-③-5

■ 「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」の配置規定

1. 「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」は、単ページ・見開きページの広告原稿ともに左側へ配置する。
2. 「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」は、外トンボから1〜2mmあけて配置する。
3. 「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」は角トンボ・センタートンボに重ねて配置してはいけない。

※「恒常性管理用カラーパッチ（27パッチ）」に関しては、

（社）日本雑誌協会 http://www.j-magazine.or.jp
（社）日本雑誌広告協会 http://www.zakko.or.jp
（社）日本広告業協会 http://www.jaaa.ne.jp よりダウンロードしてご利用ください。

2-③-6

■ 汎用A4サイズ配置規定

配置エリア	パッチNo.	パッチ数	
A1	1～9	9	27
A2	10～18	9	
B1	19～24	6	
B2	25～27	3	
C1	**	**	
C2	**	**	

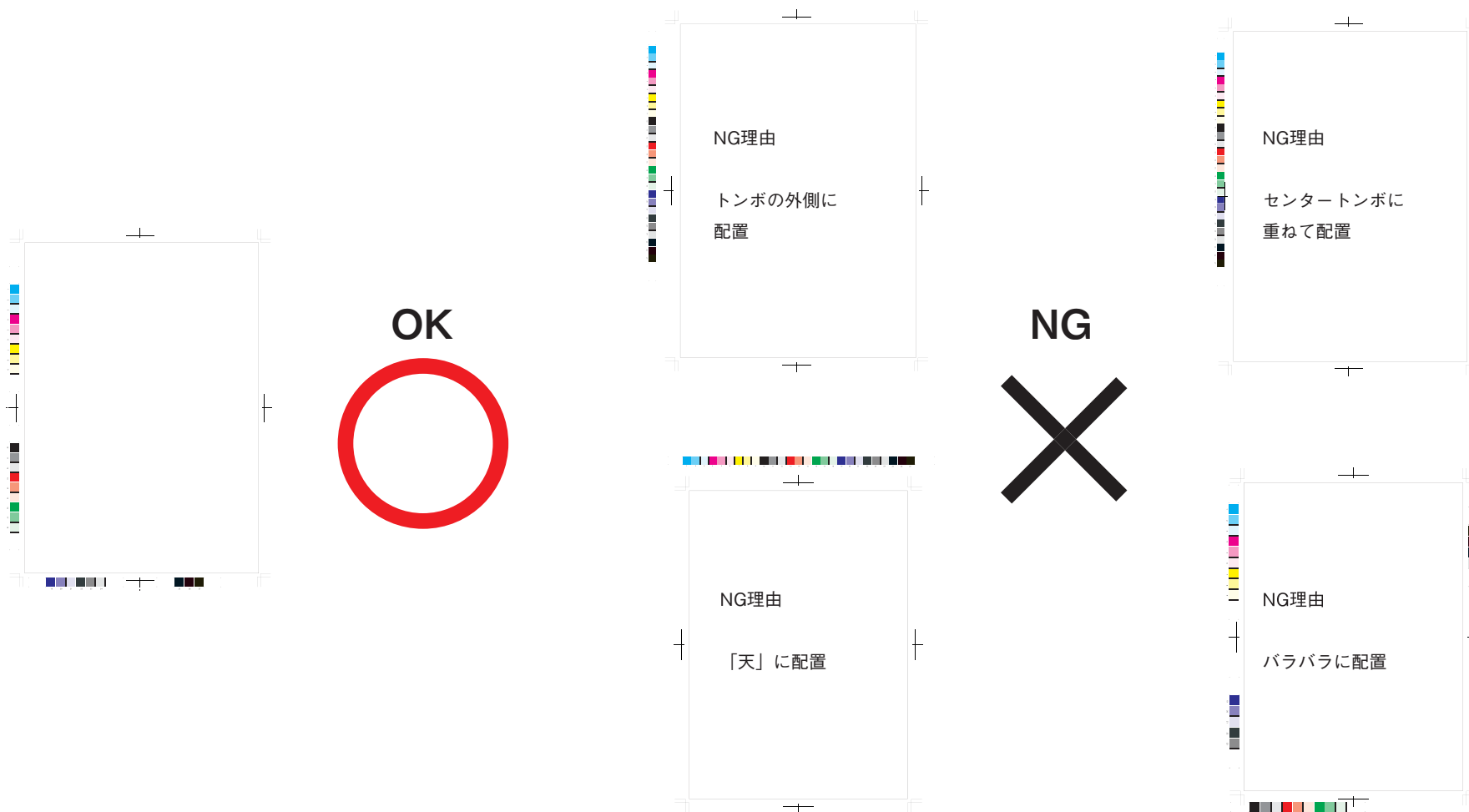
※「恒常性管理用カラーパッチ（27パッチ）」に関しては、

（社）日本雑誌協会 **http://www.j-magazine.or.jp**
（社）日本雑誌広告協会 **http://www.zakko.or.jp**
（社）日本広告業協会 **http://www.jaaa.ne.jp**

よりダウンロードしてご利用ください。

小枠原稿など特別なサイズの原稿につきましては、
配置位置を当該の媒体社に必ずお問い合わせください。

2-③-7

■ 「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」の配置事例

2-④.JMPAカラーに準拠した運用事例！

【雑誌広告デジタル送稿】
「JMPA カラー準拠フルデータ」送稿ワークフロー
「校了」タイプ導入時の推奨事例
2005 年 3 月 23 日発行

■ A社の事例:「JMPAカラー準拠の色管理の許容幅」

制作サイド(製版会社)所有のDDCP(Direct Digital Color Proof)の精度を、「JMPAカラー・ベンダーキットver.2」に基づき、
以下の数値に保ち、運用する事とした。

(ア)対照

①JMPAカラー・ベンダーキット(キット付属のDDCP出力サンプル上)の、JMPAカラーチャート(428パッチ)

②制作サイド所有のDDCPから、JMPAカラーセッティングで出力した、JMPAカラーチャート(428パッチ)

①②それぞれCIE L*a*b*値を、同じ分光光度計で測色する(測定器間で誤差があるため)。

(イ)測色条件

Illumination:D50、Observer Angle:2°、White Base:Abs、Filter:NO、Black Back

(ウ)色管理の許容幅

①②のCIE L*a*b*値から算出した色差(ΔE)の基準を、下記のように定め、「制作サイド所有DDCPの色管理の許容幅」とした。

平均ΔE=2以下　最大ΔE=5以下

※上記の数値はA社の事例であり、規定値ではない。

(エ)印刷サイドとの事前確認

制作サイド所有のDDCPの精度と、印刷サイド所有のDDCPの精度を、「JMPAカラー・ベンダーキットver.2」に基づいて精査し、
「制作サイド所有DDCPの色管理の許容幅」に則って、運用する事とした。

(オ)特記事項

①JMPAカラーチャートは使用制限があるため、測色評価作業においては、「JMPAカラー・ベンダーキットver.2」を所有する会社に委託して行う事とした。

②測色評価頻度に関しては特に定めず、制作サイドの判断において実行・管理し、その精度を制作サイドが保証するものとした。

③色管理の許容幅について、運用において問題があった場合には、その都度再考し、適切な値となるよう変更するものとした。

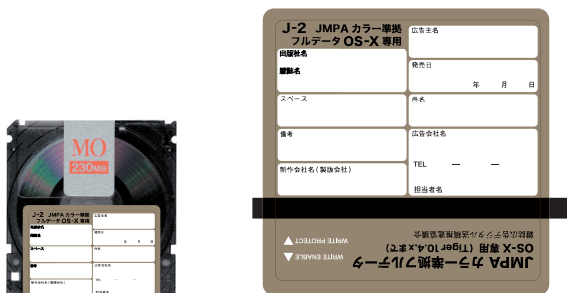
2-⑤-1.JMPAカラーに準拠した送稿（入稿）3点セット！

【雑誌広告デジタル送稿】

JMPAカラー準拠 フルデータ送稿メディア

Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版

【MO】

1原稿1メディアとし、Macフォーマットの640MB以下のMOを使用する。MOラベルに「JMPAカラー準拠 フルデータ Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版」と明記し、以下の記載事項をもれなく記入し、必ずメディアロックする。
※広告主名、出版社名、雑誌名、発売日、スペース、
　広告会社名、件名、制作会社(製版会社)名

【CD-R】

1原稿1メディアとし、Macフォーマットの700MB以下のCD-Rを使用する。CD-RWは不可。CD-Rのラベル面に「JMPAカラー準拠 フルデータ Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版」と明記し、以下の記載事項をもれなく記入し、ディスクアットワンスでデータを書き込む。
※広告主名、出版社名、雑誌名、発売日、スペース、
　広告会社名、件名、制作会社(製版会社)名

※「MOラベル」および「CD-Rラベル」は、

（社）日本雑誌協会　http://www.j-magazine.or.jp
（社）日本雑誌広告協会　http://www.zakko.or.jp
（社）日本広告業協会　http://www.jaaa.ne.jp

よりダウンロードしてご利用ください。

【雑誌広告デジタル送稿】

JMPAカラー準拠 フルデータ出力見本

最終送稿メディアのデータからの原寸出力物（出力見本であることを明記）を添付する。

※最終送稿メディアからの原寸出力物が、JMPAカラー準拠のDDCPの場合は、色見本を兼ねた出力見本とする。
JMPAカラーに準拠したDDCP（色管理された出力機）から出力されたものを色見本とする。

※カラーの出力見本を添付する。

※拡大もしくは縮小した出力見本は不可とする。

<送稿前の注意事項>

「JMPAカラー準拠フルデータ」送稿の開始時は、「JMPAカラー準拠DDCP色見本」を添付する運用を推奨する。

出版社への印刷色見本である「JMPAカラー準拠DDCP色見本」添付を全く行わないワークフローを実施する場合は、出版社への事前確認を必ず行う。

この場合、制作サイドの「JMPAカラー準拠DDCP色見本」運用における色管理の「許容幅」が重要なキーポイントとなる。

2-⑤-3

【雑誌広告デジタル送稿】

JMPAカラー準拠 フルデータ仕様書／確認書

Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版

「JMPA カラー準拠フルデータ Mac OS X / Illustrator CS2（12.0.xJ）対応版　仕様書／確認書」に記載事項を正確に記入し、最終送稿メディアに添付する。

J2 JMPA OS X AI CS2

【雑誌広告デジタル送稿】 デジタル校了専用

JMPAカラー準拠　フルデータ仕様書

Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版

※JMPAカラー準拠のDDCPで色校正作業を行なった製版済みのデータ。

基本情報

出版社名 ＿＿＿＿　広告主名 ＿＿＿＿

雑誌名 ＿＿＿＿　商品名 ＿＿＿＿

発売日　　年　　月　　日

スペース　4色（　　ページ）　表紙（　　）　その他スペース（　　ー　　本）

掲載サイズ　天地　　mm×左右　　mm　追い込み　天地　　mm　左右　　mm

送稿メディア　MO(3.5inch)　　MB　　枚　CD-R　　MB　　枚

添付出力物　☐ 出力見本 ※必ず添付して下さい。　☐ 色見本 ※添付する場合は必ず「色見本」と明記して下さい。

※最終送稿メディアからの原寸出力物が、JMPAカラー準拠のDDCPの場合は、色見本を兼ねた出力見本とする。その際は両方にチェックを入れる。

※色見本とは、JMPAカラーに準拠したDDCP（色管理された出力機）から出力されたもの。

出力ファイル

出力ファイル名 ＿＿＿＿

※作業の安全上、出力ファイル名を必ずご記入下さい。

使用システム

Mac OS X Ver.
☐ 10.4.x(Tiger)　※Tigerは最新のバージョンを使用して下さい。
☐ 10.3.9(Panther) ※Pantherは最終のバージョンを使用して下さい。
☐ 10.2.8(Jaguar)　※Jaguarは最終のバージョンを使用して下さい。

※CS2を使用する場合は、10.2.8以上のOS Xを使用して下さい。

使用アプリケーション

※必ずいずれかにチェックをして下さい。

Illustrator　☐ CS2(12.0.xJ)　☐ CS(11.0.1J)　☐ 10.0.3J

※CS2(12.0J)/CS(11.0J)/10.0.1J/10.0Jは使用不可。
※CS2は最新バージョンにアップデートして下さい。(2006年4月1日現在のバージョンは12.0.1J)

Photoshop　☐ CS2(9.0.xJ)　☐ CS(8.0.1J)　☐ 7.0.1J　☐ 6.0.1J　☐ 5.5J　☐ 5.0.2J　☐ 4.0.1J

※CS(8.0J)/7.0J/6.0J/5.0J/4.0Jは使用不可。
※CS2は最新バージョンにアップデートして下さい。(2006年4月1日現在のバージョンは9.0J)

備考

※「恒常性管理用カラーパッチ(27パッチ)」は、最終送稿データを作成する製版会社がデータに貼付し、必要に応じて制作サイド、または印刷サイドで測色を行う。
※墨ベタのヌキ、色網のノセの設定がある場合はデータ内のオーバープリント設定に加えて、仕様書備考欄および出力見本にノセヌキ指示を明記する。

送稿3点セット（最終送稿メディア、原寸サイズの添付出力物、JMPAカラー準拠 フルデータ Mac OS X / Illustrator CS2(12.0.xJ) 対応版 仕様書／確認書）が正しく揃っていることをご確認の上、下記に署名をご記入下さい。

媒体扱い広告会社記入欄	制作扱い広告会社記入欄	製版会社（制作会社）記入欄
広告会社名	広告会社名	会社名
部署名	部署名	部署名
担当者名	担当者名	担当者名
TEL	TEL	TEL

Apple、Macintosh、Mac OSおよびTrueTypeはApple Computer, Inc.の商標で、米国および各国で登録されています。
Adobe、Illustrator、PhotoshopおよびPostScriptはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
その他すべてのブランド名および製品名は個々の所有者の登録商標もしくは商標です。

雑誌広告デジタル送稿推進協議会
（社）日本雑誌協会　（社）日本雑誌広告協会　（社）日本広告業協会

J2 JMPA OS X AI CS2

2006年4月1日 改訂

【雑誌広告デジタル送稿】 デジタル校了専用

JMPAカラー準拠　フルデータ確認書

Mac OS X / Illustrator CS2 (12.0.xJ) 対応版

レイアウト＜ Illustrator ＞		製版会社(制作会社)	広告会社	出版社
ファイル名	レイアウトデータ、配置データのファイル名は半角カタカナと半角記号を使用していない。ファイル名は、拡張子を含め、31文字以内である。(アンダーバー[_]および拡張子のドット[.]は使用可)	☐ OK	☐ OK	☐ OK
原稿サイズとトンボ	トリムサイズ（断ちサイズ）が正しく作成されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
	追い込みサイズが、正しく作成されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
	塗り足しが、正しく作成されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
	トンボはダブルトンボとし、内トンボと外トンボの間隔を正しく設定、色設定がCMYK各版100%（またはレジストレーション）で設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
	トンボ罫の線幅が0.05mmで設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
非印刷設定	非表示レイヤー、非印刷レイヤー、非表示オブジェクトの設定がされていない。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
フォント	フォントは全てアウトライン化がされている。 ※フォント情報を含む孤立点・オブジェクトも使用不可。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
色設定	色設定はCMYK・グレースケールで作成されている。 ※RGB・スポットカラー（カスタムカラー）は使用不可。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
オーバープリント	全てのオーバープリント設定が、原稿データ内に設定されている。墨ベタのヌキ、色網のノセの設定がある場合はデータ内のオーバープリント設定に加えて、仕様書および出力見本にノセヌキ指示が明記されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
画像配置	画像データは、全て埋め込む。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存	IllustratorはEPS形式で保存されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
	Adobe PostScript(R) 3(=レベル3)で保存されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
書類のカラーモード	書類のカラーモードが、CMYKで設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
TAC値（総網点量）	「4色トンボ」以外は、「平網」「配置画像」を含め、TAC値（総網点量）は320%以下で作成されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
ライダー設定	ライダー設定がされていない。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
互換性	保存時の互換性は作成バージョンと同じ物が選択されている。 ※バージョンダウンは不可。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
書類のラスター効果設定	『効果』メニューの『ドキュメントのラスター効果設定』の解像度が、350ppiに設定されている。(CS2) 『効果』メニューの『書類のラスター効果設定』の解像度が、350ppiに設定されている。(CS、10.0.3J)	☐ OK	☐ OK	☐ OK
レイアウト ＜ Illustrator CS2(12.0.xJ)、CS(11.0.1J) 固有機能 ＞				
書類設定	『ドキュメント設定』『透明』の『書き出しとクリップボードにおける分割/統合』の『設定』が、高解像度に設定されている。(CS2) 『書類設定』『透明』の『書き出しとクリップボードにおける分割/統合』の『設定』が、高解像度に設定されている。(CS)	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存(EPSオプション)	『EPSオプション』の『透明』で『オーバープリント』は保持に設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
	透明効果を使用している場合、『EPSオプション』の『透明』で『設定』は高解像度に設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
レイアウト ＜ Illustrator 10.0.3J 固有機能 ＞				
書類設定	『書類設定』『プリント・データ書き出し』のパスの『出力解像度』は800dpi以上、『グラデーションメッシュの解像度』は350ppiに設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
	『書類設定』『透明』の『ラスタライズ／ベクトル設定』はベクトル100に、ラスタライズ解像度は400ppiに設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
画像 ＜ Photoshop ＞				
カラーモード	画像モードが、CMYK・グレースケール・モノクロ2階調で作成されている。 ※RGB・Lab・ダブルトーンは使用不可。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
解像度	レイアウトデータに多値画像・二値画像とも拡縮率は80%～120%で配置し、配置後の最終出力解像度が、多値画像は290～450dpi、二値画像は1000～3000dpiで作成されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
ICCプロファイル	画像にICCプロファイルが埋め込まれていない。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
クリッピングパス平滑度	クリッピングパス平滑度が0.2デバイスピクセルで設定されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
レイヤー	画像データのフォーマットがTIFFまたはPSD（Photoshopネイティブ）形式の場合、レイヤーが統合されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存	画像は、EPS、TIFF、またはPSD（Photoshopネイティブ）形式で保存されている。※PSD形式の場合は、Illustrator / Photoshopともに、CS2またはCSのバージョンが使用されている。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存 EPSオプション	EPSは圧縮せず、ASCII85（CS2、CS）またはASCII（7.0.1J以下）で保存されている。※エンコーディングJPEG保存（画像圧縮）およびバイナリ保存は不可。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存 EPSオプション	『ハーフトーンスクリーンを含める』のチェックが選択されていない。『プリントプレビュー』『スクリーン』の『プリンタ初期設定値を使う』のチェックが選択されている。(CS2、CS) 『用紙設定』『ハーフトーンスクリーン』の『プリンタ初期設定値を使う』のチェックが選択されている。(7.0.1J以下)	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存 EPSオプション	トランスファ関数が埋め込まれていない。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存 EPSオプション	『ポストスクリプトカラー管理』のチェックが選択されていない。	☐ OK	☐ OK	☐ OK
保存 TIFFオプション	画像圧縮は、なし、LZWまたはZIPが選択されている。※JPEGによる圧縮は不可。	☐ OK	☐ OK	☐ OK

※「JMPAカラー準拠 フルデータ仕様書／確認書」は、

（社）日本雑誌協会	**http://www.j-magazine.or.jp**
（社）日本雑誌広告協会	**http://www.zakko.or.jp**
（社）日本広告業協会	**http://www.jaaa.ne.jp**

よりダウンロードしてご利用ください。

3-①.JMPAカラーに準拠したフルデータ制作ルール詳細！

MacOS X / Illustrator CS2 対応版

【雑誌広告デジタル送稿】デジタル校了専用

JMPAカラー準拠
フルデータ制作ルール

Mac OS X / Illustrator CS 2（12.0.xJ）対応版

※JMPAカラー準拠のDDCPで色校正作業を行なった製版済みのデータ。

雑誌広告デジタル送稿推進協議会

（社）日本雑誌協会　（社）日本雑誌広告協会　（社）日本広告業協会

2006年4月1日 改訂

■原稿データ全般編..........................P21

■Illustrator編..............................P30

■Photoshop編...............................P36

JMPAカラー準拠フルデータ制作ルール（原稿データ全般編）

原稿データ全般

□データフォーマット
Mac版のIllustratorEPS形式。

□MacOSのバージョン
Mac OS X 10.4.x（Tiger）、10.3.9（Panther）、
10.2.8（Jaguar）を使用する。
※Tigerは最新バージョンに、
Panther、Jaguarは最終バージョンに、それぞれアップデートする。
※CS2を使用する場合は、10.2.8以上のOS Xを使用する。

□Illustratorのバージョン
CS2（12.0.xJ）、CS（11.0.1J）、10.0.3Jを使用する。
※CS2は最新バージョンにアップデートする。
※2006年4月1日現在のバージョンは、12.0.1J。

□Photoshopのバージョン
CS2（9.0.xJ）、CS（8.0.1J）、7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、
4.0.1Jを使用する。
※CS２は最新バージョンにアップデートする。
※2006年4月1日現在のバージョンは、9.0J。

□ウイルスチェック
ウイルスに感染したメディアは使用しない。

□データ圧縮
原稿データを圧縮ソフトで圧縮しない。

□ファイル名
レイアウトデータ、配置データのファイル名は、
半角カタカナと半角記号を使用しない。
アンダーバー[_]及び拡張子のドット[.]は使用可。
文字数は、拡張子を含めて31文字以内とする。

□オーバープリント
ノセヌキは処理側でデータに忠実に反映する。
通常はブラックオーバープリントですが、
墨ベタのヌキ、色網のノセの設定は、
別途仕様書の備考欄および出力見本にノセヌキ指示を明記する。

□原稿サイズ
トリムサイズ(断ちサイズ)を正しく作成する。
追い込みサイズを正しく作成する。塗り足しを正しく作成する。

□トンボ
トンボはダブルトンボとし、内トンボと外トンボの間隔を正しく設定する。
トンボ罫の色設定は、CMYK各版100%(またはレジストレーション)で設定
する。トンボ罫の線幅は0.05mmに設定する。

□使用色
CMYK、グレースケールのみ使用。RGB、スポットカラー(カスタムカラー)
は使用不可。原稿データ内に不要な版の色指定はしない。

□画像配置方法
配置画像は全て埋め込む。

□保存形式
Adobe PostScript(R)3（＝レベル3）で保存する。

JMPAカラー準拠フルデータ制作ルール（原稿データ全般編）

□下位保存

下位保存はしない。

□書類のカラーモード

書類のカラーモードをCMYKに設定する。

□ライダー設定

ライダー設定は行わない。

□TAC値(総網点量)

「4 色トンボ」以外は、「平網」「配置画像」 を含め、TAC 値 (総網点量) を 320% 以下にする。

□小枠原稿

小枠原稿の場合、掲載サイズで作成する。
4色のセンタートンボ、角トンボを付ける。

□非印刷設定

非表示レイヤー、非印刷レイヤー、非表示オブジェクトの設定はしない。

□データ量

原稿データのデータ量は600MB以下にする。

□恒常性管理用カラーパッチ

恒常性管理用カラーパッチを規定の位置に配置する。

Font

□フォントデータ

フォントデータは全てアウトライン化する。

□フォントデータを含む孤立点

フォントデータを含む孤立点は、原稿データ内に入れない。

データフォーマット

Mac版のIllustratorEPS形式。

EPS保存

EPSとは、米アドビシステムズ社がPostScript対応の出力機器で出力することを前提として開発した保存形式。データ自体がPostScriptで書かれているため、PostScript対応の出力機では最も安定して出力できると言われています。また、印刷会社の製版システムでそのまま展開出来るため、最も安全な保存形式です。

AI保存

AIとは、Adobe Illustratorの頭文字で、AI保存は、Illustratorでのネイティブ保存です。
製版システムでの汎用性が低く、印刷会社の異なった環境でデータを開く必要があるため、トラブルの要因となり、入稿できません。

MacOSバージョン

Mac OS X 10.4.x (Tiger) 、10.3.9 (Panther) 、10.2.8 (Jaguar) を使用する。

※Tigerは最新バージョンに、Panther、Jaguarは最終バージョンに、
それぞれアップデートする。
※CS2を使用する場合は、10.2.8以上のOS Xを使用する。

Illustratorのバージョン

CS2 (12.0.xJ) 、CS (11.0.1J) 、10.0.3Jを使用する。

※CS2は最新バージョンにアップデートする。
※2006年4月1日現在のバージョンは、12.0.1J。

◎サブバージョンにご注意ください（以下参照）

1.Illustratorを起動した状態で
Illustrator
↓
[Illustratorについて]
を選択してください。

2.表示されたボックスでサブバージョンの確認ができます。このサブバージョンが「12.0・11.0・10.0.1・10.0」の場合、アップデートをしてください。

3.Adobeホームページ
(http://www.adobe.co.jp/support/downloads/ilmac.html)
にて、無料でアップデータがダウンロード可能です。

Photoshopのバージョン

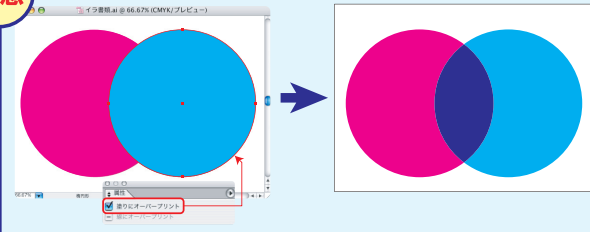
CS2（9.0.xJ）、CS（8.0.1J）、7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、4.0.1Jを使用する。

※CS2は最新バージョンにアップデートする。
※2006年4月1日現在のバージョンは、9.0J。

ウィルスチェック

ウィルスに感染したメディアは使用しない。

データ圧縮

原稿データを圧縮ソフトで圧縮しない。

ファイル名

レイアウトデータ、配置データのファイル名は、半角カタカナと半角記号を使用しない。アンダーバー「_」及び拡張子のドット「.」は使用可。 文字数は、拡張子を含め31文字以内とする。

オーバープリント

ノセヌキは処理側でデータに忠実に反映する。通常はブラックオーバープリントですが、墨ベタのヌキ、色網のノセの設定は、別途仕様書の備考欄および出力見本にノセヌキ指示を明記する。

原稿サイズ

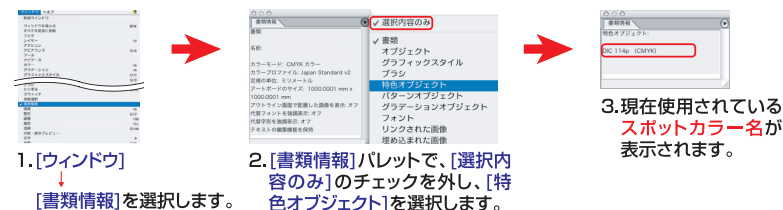
トリムサイズ（断ちサイズ）を正しく作成する。追い込みサイズを正しく作成する。塗り足しを正しく作成する。

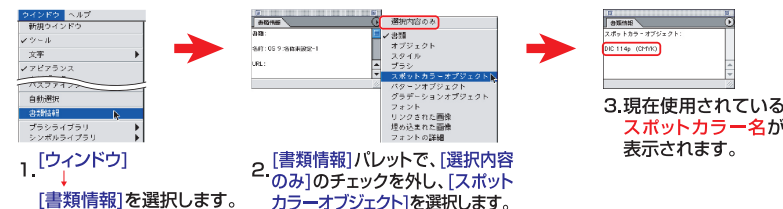
トンボ

トンボはダブルトンボとし、内トンボと外トンボの間隔を正しく設定する。トンボ罫の色設定は、CMYK各版100%（またはレジストレーション）で設定する。トンボ罫の線幅は0.05mmに設定する。

使用色

CMYK、グレースケールのみ使用。RGB、スポットカラー（カスタムカラー）は使用不可。原稿データ内に不要な版の色指定はしない。

Illustrator CS2 12.0.xJ 使用時

スポットカラー使用状況確認方法

Illustrator CS11.0.1J 使用時

スポットカラー使用状況確認方法

Illustrator 10.0.3J 使用時

スポットカラー使用状況確認方法

上記各バージョン共通

RGB使用状況確認方法

RGBオブジェクトに関しては、書類カラーモードがCMYKモードの場合、アプリケーションのカラーエンジンで強制的にCMYKに変換されるので、意図しない色味になる恐れがあります。　ご注意ください。

画像配置方法

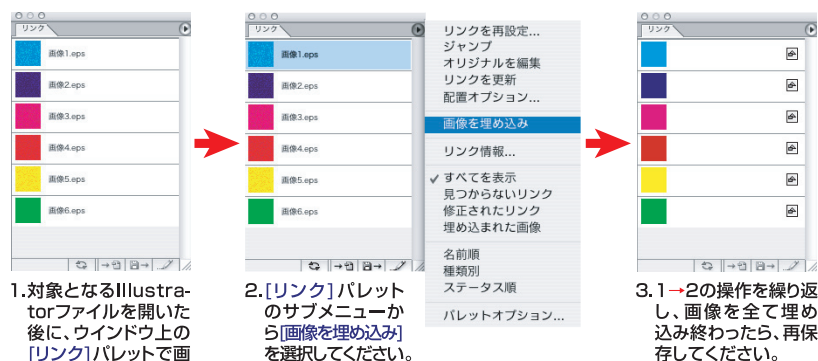
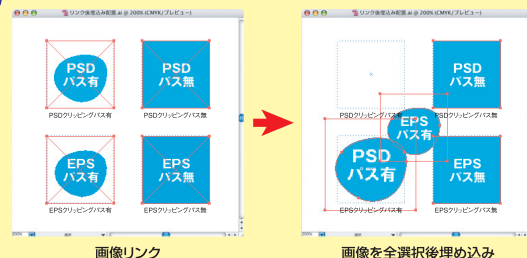
配置画像は全て埋め込む。

1.対象となるIllustratorファイルを開いた後に、ウインドウ上の[リンク]パレットで画像を1つ選択します。

2.[リンク]パレットのサブメニューから[画像を埋め込み]を選択してください。

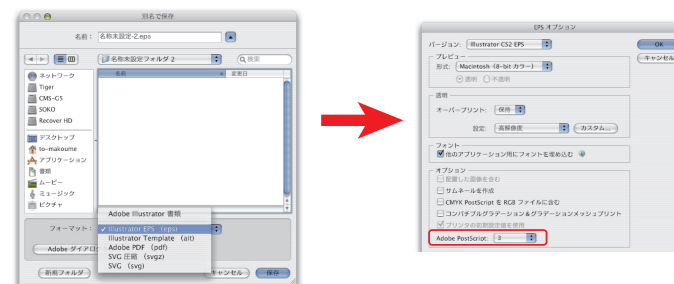
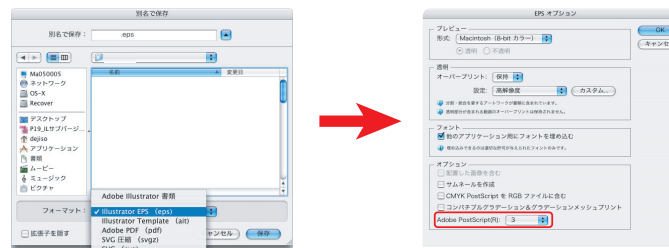
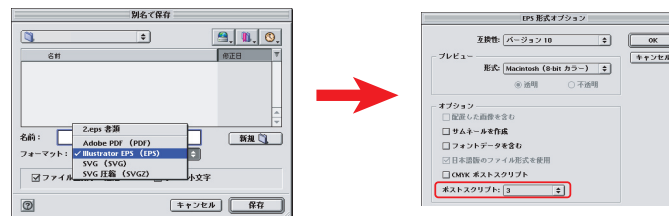
3.1→2の操作を繰り返し、画像を全て埋め込み終わったら、再保存してください。

注意

画像リンク　画像を全選択後埋め込み

画像をリンク配置後埋め込むと、画像が拡大・移動する可能性があります。左は一例に過ぎませんが、実際にテストで起きた現象です。また、画像に適用した効果等が消滅する事もあります。画像を1点ずつ確認しながら埋め込み、体裁等の崩れが出た場合は修正してください。

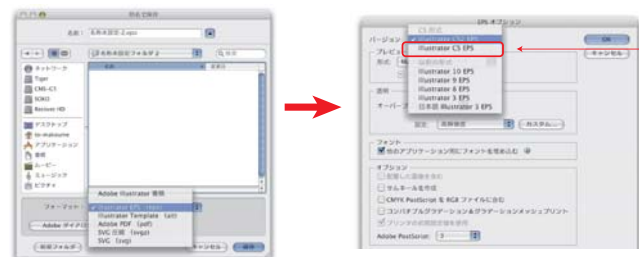
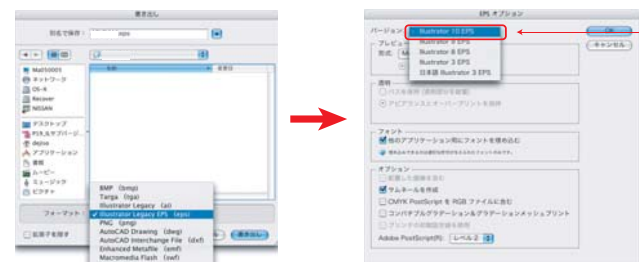
保存形式

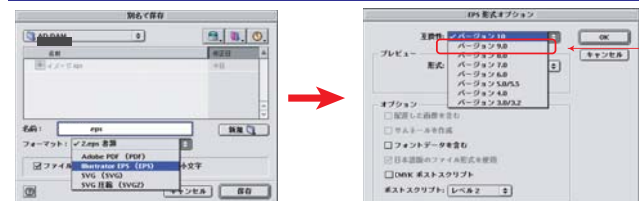
Adobe PostScript(R)3 (=レベル3) で保存する。

Illustrator CS2 12.0.xJ使用時

Illustrator CS 11.0.1J使用時

Illustrator 10.0.3J使用時

注意

ポストスクリプトとは、米アドビシステムズ社が開発し、1985年に公開したページ記述言語です。出力装置に合わせた解像度で出力されるため、文字・グラフィックス・画像を高品位に印刷でき、アプリケーション上では、絵や文字の回転・拡大・縮小・変形などが自由に出来ます。ポストスクリプト3は、1996年に発表されたポストスクリプトの新バージョンです。グラデーション・画像の出力品質や出力速度が向上しています。

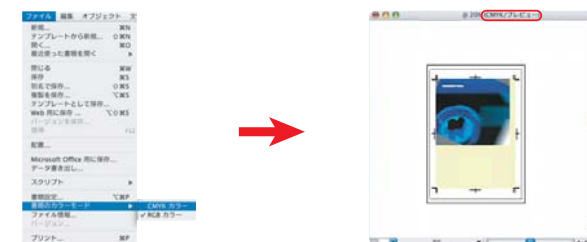
下位保存

下位保存はしない。

注意 データ保存する際の、「保存」「別名で保存」はバージョンを選ぶメッセージは出ません。CS（11.0.1J）では「データ書き出し...」を選んだ場合に表示されます。

Illustrator 10.0.3J使用時

注意 下位保存をしたファイルを出力すると、文字送りのズレ・オブジェクトの消失・バージョンアップで加わった新機能が反映されない・テキストがラスタライズされてしまう等の問題が発生してしまいます。

EPS保存時、作成バージョンで保存してください。
下位保存は入稿できません。

書類のカラーモード

書類のカラーモードをCMYKに設定する。

1.［ファイル］〜［書類のカラーモード］
↓
［CMYKカラー］
を選択します。

2.CMYKモードに変換され、画面上も（CMYK/プレビュー）になりました。

注意 ①CMYK画像をRGBモードのIllustratorファイルに埋め込むと、Illustrator上でRGB画像に変換されてしまう為色味が変化してしまいます。このIllustratorファイルをCMYKモードに変換しても、元の画像と同じ色味のデータには変換されません。画像を再配置してください。
②CMYKモードに変換した時、RGBモードでしか使用できない一部機能で、その効果が消滅してしまう事があります。変換した後は必ずプリントアウトで確認作業を行うことをお薦めします。

注意 新規でファイルを作成する時、カラーモードはCMYKカラーを選択して作成してください（図1参照）、RGBモードでしか使用できない機能を使う時、RGBモードに変換すると、その都度埋め込み画像は変換されてしまい色味が変化してしまいます（図2参照）。これは画像だけに言える事ではなく、RGBモードでCMYKカラーに設定したオブジェクトを作成しても、色味は変化してしまいます（図3参照）。結果最終的なデータが意図した色味では無くなってしまう事もありますので、RGBモードの使用は充分注意が必要です。

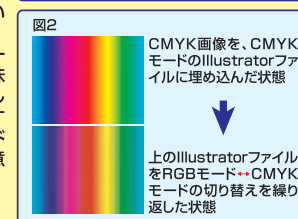
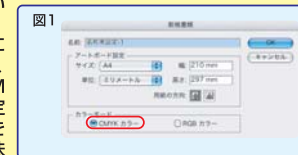
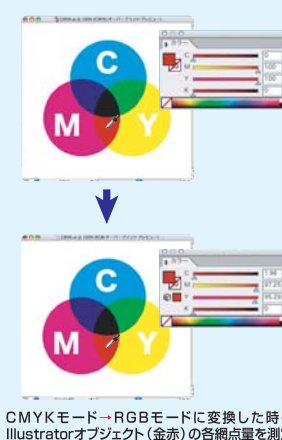
図1

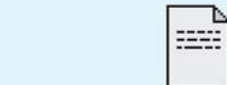
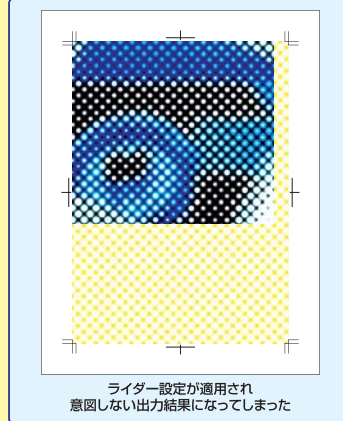
図2

CMYK画像を、CMYKモードのIllustratorファイルに埋め込んだ状態

上のIllustratorファイルをRGBモード↔CMYKモードの切り替えを繰り返した状態

図3

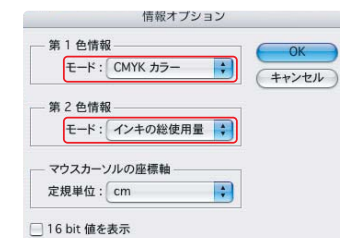
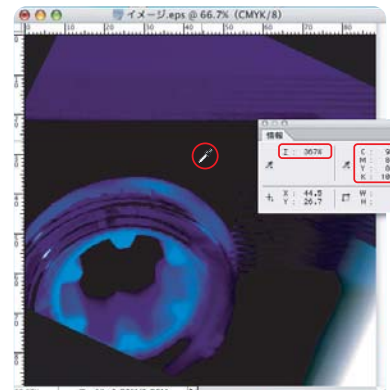
CMYKモード→RGBモードに変換した時のIllustratorオブジェクト（金赤）の各網点量を測定

ライダー設定

ライダー設定は行わない。

ライダーを設定

ライダー設定が適用され
意図しない出力結果になってしまった

ライダー設定は、プラグインフォルダ内にファイルをインストールする事で設定できるようになります。Illustrator全てのファイルに同じスクリーン線数や角度、スポット関数、平滑度、注記、エラーハンドラメッセージを適用する事ができ、ライダー設定をすると、色分解設定等を無視しライダー設定を優先させ、意図しない出力結果になるおそれがあります。

TAC値（総網点量）

「4色トンボ」以外は、「平網」「配置画像」を含め、TAC値（総網点量）を320%以下にする。

1.ウインドウの[情報]パレットから[パレットオプション]を選択します。

2.[情報オプション]ボックスを上記のように設定します。

3.画像の高濃度部分を[スポイトツール]で測ると[情報]パレットの左上にCMYK各版のインキ使用量(%)が右上にCMYK4版合計のインキ総使用量が表示されます。

4.このインキ総使用量が320%を超えないように画像操作をしてください。

5.画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを張り直して（埋め込み直して）保存してください。

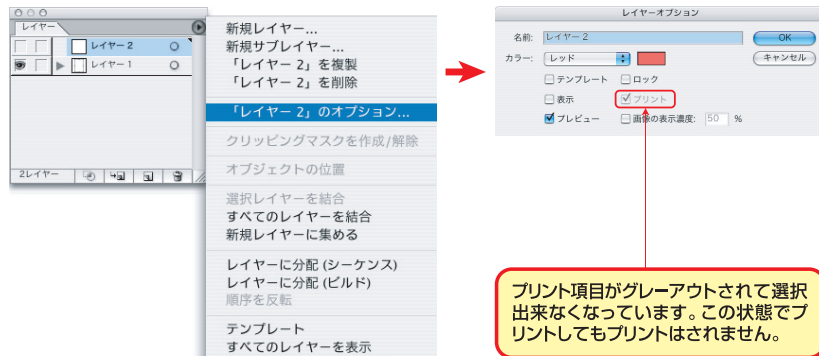
注意

①インキ総使用量をTAC値と言いますが、このTAC値が高すぎると、インキの盛り過ぎが原因となり、ブロッキング（インキが乾く前に過重な圧力が加わるなどして、重なった用紙が接着してしまう現象）等が起こる可能性があります。

②TAC値の調整は、濃度をただ下げれば良いだけではありません。色味の変化を最小限に抑えて、高濃度部分のみ調整するには、製版知識が必要となります。製版会社等に依頼するか、新たにスキャニングし直す事をお薦めします。

非印刷設定

非表示レイヤー、非印刷レイヤー、非表示オブジェクトの設定はしない。

小枠原稿

小枠原稿の場合、掲載サイズで作成する。
4色のセンタートンボ、角トンボを付ける。

データ量

原稿データのデータ量は600MB以下にする。

恒常性管理用カラーパッチ

恒常性管理用カラーパッチを規定の位置に配置する。

フォントデータ

フォントは全てアウトライン化する。

フォントデータを含む孤立点

フォントデータを含む孤立点は、原稿データ内に入れない。

JMPAカラー準拠フルデータ制作ルール（Illustrator編）

Illustrator CS2（12.0.xJ）

□保存形式

『EPS』オプションの『透明』で『オーバープリント』は保持を選択する。
透明効果を使用している場合は、『EPS』オプションの『透明』で
『設定』は高解像度を選択する。　（透明効果を使用していない場合は、
設定がグレーアウトされており、選択できない。）

□書き出しとクリップボードにおける分割／統合

『ドキュメント設定』で『透明』の『書き出しとクリップボードにおける
分割／統合』の『設定』を高解像度にする。

□効果メニュー

『効果』メニューの『ドキュメントのラスタライズ効果設定』の解像度を
350ppiに設定する。

Illustrator CS（11.0.1J）

□保存形式

『EPS』オプションの『透明』で『オーバープリント』は保持を選択する。
透明効果を使用している場合は、『EPS』オプションの『透明』で
『設定』は高解像度を選択する。　（透明効果を使用していない場合は、
設定がグレーアウトされており、選択できない。）

□書き出しとクリップボードにおける分割／統合

『書類設定』で『透明』の『書き出しとクリップボードにおける
分割／統合』の『設定』を高解像度にする。

□効果メニュー

『効果』メニューの『書類のラスタライズ効果設定』の解像度を350ppiに
設定する。

Illustrator10.0.3J

□パスの出力解像度

『書類設定』で『プリント・データ書き出し』の『出力解像度』を800dpi以上に
設定する。

□ラスタライズ／ベクトル設定

『書類設定』で『透明』の『ラスタライズ／ベクトル設定』をベクトル100に、
『ラスタライズ解像度』を400ppiに設定する。

□グラデーションメッシュの解像度

『書類設定』で『グラデーションメッシュの解像度』を350ppiに設定する。

□効果メニュー

『効果』メニューの『書類のラスター効果設定』の解像度を350ppiに設定する。

保存形式 CS2 (12.0.xJ)

『EPS』オプションの『透明』で『オーバープリント』は保持を選択する。

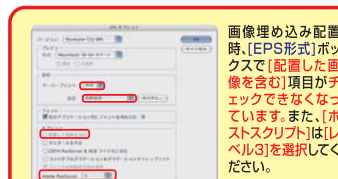
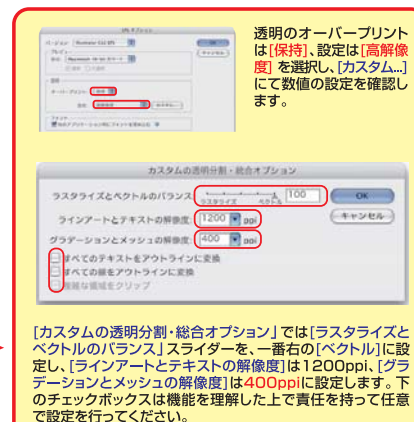
透明効果を使用している場合は、『EPS』オプションの『透明』で『設定』は高解像度を選択する。
（透明効果を使用していない場合は、設定がグレーアウトされており、選択できない。）

1.対象となるIllustratorファイルを開いた後に[ファイル]→[保存]を選択します。

画像埋め込み配置時、[EPS形式]ボックスで[配置した画像を含む]項目がチェックできなくなっています。また、[ポストスクリプト]は[レベル3]を選択してください。

2.データ保存時[EPSオプション]ボックスで、下記の設定を行ってください。

透明のオーバープリントは[保持]、設定は[高解像度]を選択し、[カスタム...]にて数値の設定を確認します。

[カスタムの透明分割・統合オプション]では[ラスタライズとベクトルのバランス]スライダーを、一番右の[ベクトル]に設定し、[ラインアートとテキストの解像度]は1200ppi、[グラデーションとメッシュの解像度]は400ppiに設定します。下のチェックボックスは機能を理解した上で責任を持って任意で設定を行ってください。

注意 新規でファイルを作成する時、設定がデフォルトに戻ってしまいます。作業を始める前に右記の設定をする事をお薦めします。

書き出しとクリップボードにおける分割／統合 CS2 (12.0.xJ)

『ドキュメント設定』で『透明』の『書き出しとクリップボードにおける分割／統合』の『設定』を高解像度にする。

1.対象となるIllustratorファイルを開いた後に[ファイル]→[ドキュメント設定]を選択します。

2.[書類設定]ボックスで、下記の設定を行ってください。

[書き出しとクリップボードにおける分割・統合]では設定を[高解像度]を選択します。必要であれば[カスタム...]の[カスタムの透明分割・総合オプション]を設定してください。

[カスタムの透明分割・総合オプション]では[ラスタライズとベクトルのバランス]スライダーを、一番右の[ベクトル]に設定し、[ラインアートとテキストの解像度]は1200ppi、[グラデーションとメッシュの解像度]は400ppiに設定します。下のチェックボックスは機能を理解した上で責任を持って任意で設定を行ってください。

注意 新規でファイルを作成する時、設定がデフォルトに戻ってしまいます。作業を始める前に右記の設定をする事をお薦めします。

注意

図1

画像の上に、透明効果を使用したオブジェクト・グラデーションメッシュオブジェクト・テキストオブジェクトを作成。上記設定を行った正しい出力結果。

上記設定を行わなかった為、低解像度化してしまった出力結果。

図2

オブジェクトを選択後、[オブジェクト]→[透明部分を分割・統合]を選択。[透明部分を分割・統合]ボックスで設定した値での出力結果が予想できます。[オーバープリントと特色を保持]にチェックを入れてください。

IllustratorCS2（12.0.xJ）使用時、上記の設定がされていないと、出力の際オブジェクトが粗くなったりテキストがラスタライズされてしまう等の問題が発生してしまいます（図1参照）。但しこの設定はあくまでも最低値であり、必ずしも出力を保証する物ではありません。[透明部分を分割]機能（図2参照）を使用すると、出力結果が予測できます。確認の上設定を行うことをお薦めします。

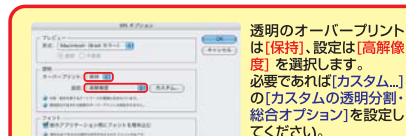
保存形式 CS (11.0.1J)

『EPS』オプションの『透明』で『オーバープリント』は保持を選択する。

透明効果を使用している場合は、『EPS』オプションの『透明』で『設定』は高解像度を選択する。
（透明効果を使用していない場合は、設定がグレーアウトされており、選択できない。）

1.対象となるIllustratorファイルを開いた後に
[ファイル]
↓
[保存]
を選択します。

画像埋め込み配置時、[EPS形式]ボックスで[配置した画像を含む]項目がチェックできなくなっています。また、[ポストスクリプト]は[3（=レベル3）]を選択してください。

2.データ保存時[EPSオプション]ボックスで、下記の設定を行ってください。

透明のオーバープリントは[保持]、設定は[高解像度]を選択します。
必要であれば[カスタム...]の[カスタムの透明分割・総合オプション]を設定してください。

[カスタムの透明分割・総合オプション]では[ラスタライズ/ベクトル設定]スライダーを、一番右の[ベクトル]に設定し、[ラインアートとテキストの解像度]は1200ppi、[グラデーションとメッシュの解像度]は400ppiに設定します。下のチェックボックスは機能を理解した上で責任を持って任意で設定を行ってください。

注意 新規でファイルを作成する時、設定がデフォルトに戻ってしまいます。作業を始める前に右記の設定をする事をお薦めします。

書き出しとクリップボードにおける分割／統合 CS (11.0.1J)

『書類設定』で『透明』の『書き出しとクリップボードにおける分割／統合』の『設定』を高解像度にする。

1.対象となるIllustratorファイルを開いた後に
[ファイル]
↓
[書類設定]
を選択します。

注意 新規でファイルを作成する時、設定がデフォルトに戻ってしまいます。作業を始める前に右記の設定をする事をお薦めします。

2.[書類設定]ボックスで、下記の設定を行ってください。

[書き出しとクリップボードにおける分割・統合]では設定を[高解像度]を選択します。
必要であれば[カスタム...]の[カスタムの透明分割・総合オプション]を設定してください。

[カスタムの透明分割・総合オプション]では[ラスタライズ/ベクトル設定]スライダーを、一番右の[ベクトル]に設定し、[ラインアートとテキストの解像度]は1200ppi、[グラデーションとメッシュの解像度]は400ppiに設定します。下のチェックボックスは機能を理解した上で責任を持って任意で設定を行ってください。

注意

図1

画像の上に、透明効果を使用したオブジェクト・グラデーションメッシュオブジェクト・テキストオブジェクトを作成。上記設定を行った正しい出力結果。

上記設定を行わなかった為、低解像度化してしまった出力結果。

図2

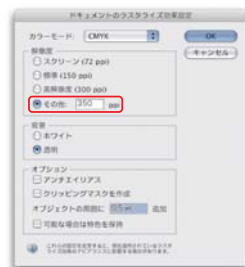
オブジェクトを選択後、[オブジェクト]→[透明部分を分割・統合]を選択。[透明部分を分割・統合]ボックスで設定した値での出力結果が予想できます。[オーバープリントと特色を保持]にチェックを入れてください。

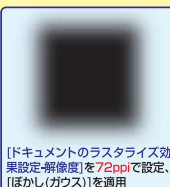
IllustratorCS（11.0.1J）使用時、上記の設定がされていないと、出力の際オブジェクトが粗くなったりテキストがラスタライズされてしまう等の問題が発生してしまいます（図1参照）。但しこの設定はあくまでも最低値であり、必ずしも出力を保証する物ではありません。[透明部分を分割]機能（図2参照）を使用すると、出力結果が予測できます。確認の上設定を行うことをお薦めします。

効果メニュー CS2 (12.0.xJ)

『効果』メニューの『ドキュメントのラスタライズ効果設定』の解像度を350ppiに設定する。

3.解像度設定を変更した際に、一部の機能で効果を維持できない（アピアランスを再設定してしまう）ものがあります、確認の上、修正してください。

1. 対象となるIllustratorファイルを開いた後に[効果]
↓
[ドキュメントのラスタライズ効果設定]を選択します。

2. [ドキュメントのラスタライズ効果設定]ボックスで上記のように[解像度]を[その他(350ppi)]に設定してください。

例

[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を72ppiで設定、[ぼかし(ガウス)]を適用

[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を350ppiで再設定

上記3で示した、解像度設定変更の際に効果を維持できない一例です。これは、[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]をデフォルトの72ppiで設定し、長方形オブジェクトに、[効果]→[ぼかし]→[ぼかし(ガウス)]を適用、その後[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を350ppiに再設定した物です。このように解像度に依存する効果は、再設定の際に効果を維持できません。

注意

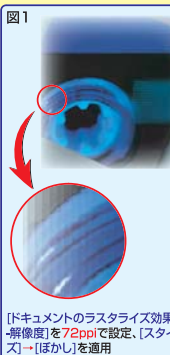



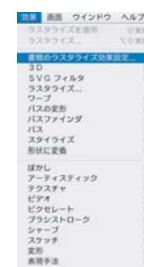
図1
[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を72ppiで設定、[スタイライズ]→[ぼかし]を適用

図2
[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を350ppiで設定、[スタイライズ]→[ぼかし]を適用

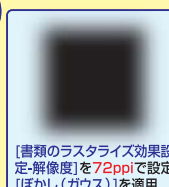
左の図は、[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を、デフォルトの72ppi(図1)と350ppi(図2)でそれぞれ設定し、[効果]→[スタイライズ]→[ぼかし]を適用した物です。
72ppiで設定した画像は、ボケ足が低解像度化しているのが分かります。このように[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を低く設定しますと、出力の際には低解像度のまま出力してしまいます。
また、[ドキュメントのラスタライズ効果設定-解像度]を変更することで、上記(例)にもあるように、Illustratorはアピアランスを再設定してしまう事があります。この際に、Illustratorがアピアランスの再設定に失敗することもありますので、書類作成の際には、最初にこの設定を行うことをお薦めします。

効果メニュー CS (11.0.1J)

『効果』メニューの『書類のラスタライズ効果設定』の解像度を350ppiに設定する。

3.解像度設定を変更した際に、一部の機能で効果を維持できない（アピアランスを再設定してしまう）ものがあります、確認の上、修正してください。

1. 対象となるIllustratorファイルを開いた後に[効果]
↓
[書類のラスタライズ効果設定]を選択します。

2. [書類のラスタライズ効果設定]ボックスで上記のように[解像度]を[その他(350ppi)]に設定してください。

例

[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を72ppiで設定、[ぼかし(ガウス)]を適用

[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を350ppiで再設定

上記3で示した、解像度設定変更の際に効果を維持できない一例です。これは、[書類のラスタライズ効果設定-解像度]をデフォルトの72ppiで設定し、長方形オブジェクトに、[効果]→[ぼかし]→[ぼかし(ガウス)]を適用、その後[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を350ppiに再設定した物です。このように解像度に依存する効果は、再設定の際に効果を維持できません。

注意

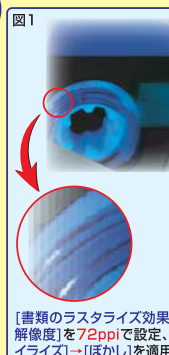



図1
[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を72ppiで設定、[スタイライズ]→[ぼかし]を適用

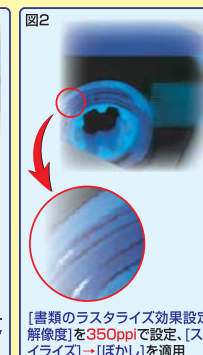



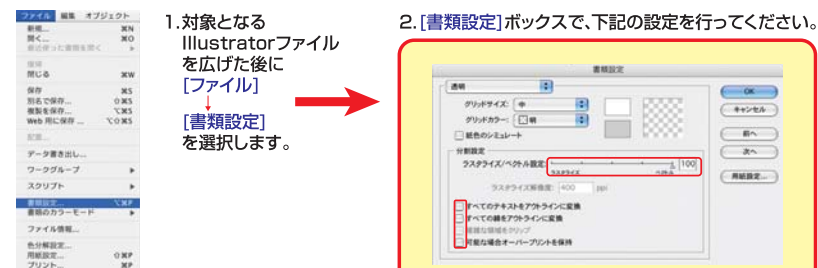
図2
[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を350ppiで設定、[スタイライズ]→[ぼかし]を適用

左の図は、[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を、デフォルトの72ppi(図1)と350ppi(図2)でそれぞれ設定し、[効果]→[スタイライズ]→[ぼかし]を適用した物です。
72ppiで設定した画像は、ボケ足が低解像度化しているのが分かります。このように[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を低く設定しますと、出力の際には低解像度のまま出力されてしまいます。
また、[書類のラスタライズ効果設定-解像度]を変更することで、上記(例)にもあるように、Illustratorはアピアランスを再設定してしまう事があります。この際に、Illustratorがアピアランスの再設定に失敗することもありますので、書類作成の際には、最初にこの設定を行うことをお薦めします。

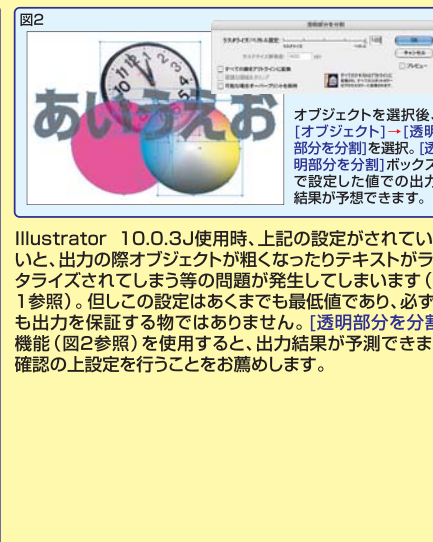
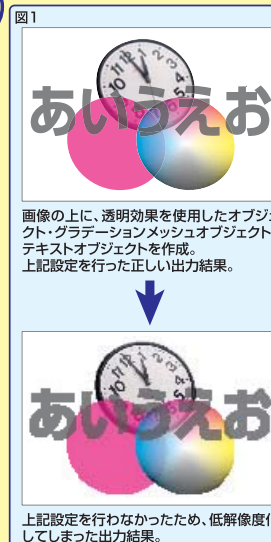
パスの出力解像度(10.0.3J)

『書類設定』で『プリント・データ書き出し』の『出力解像度』を800dpi以上に設定する。

ラスタライズ／ベクトル設定(10.0.3J)

『書類設定』で『透明』の『ラスタライズ／ベクトル設定』をベクトル100に、『ラスタライズ解像度』を400ppiに設定する。

1.対象となるIllustratorファイルを広げた後に[ファイル]↓[書類設定]を選択します。

2.[書類設定]ボックスで、下記の設定を行ってください。

【透明】では【プリント・データ書き出し】スライダーを、一番右の【ベクトル】に設定し、【ラスタライズ解像度】を400ppiに設定してください。
各チェックボックスは、機能を理解した上で、責任を持って、任意で設定を行ってください。

3.最後にIllustratorファイルを、再保存して終了です。

注意 新規でファイルを作成する時、設定がデフォルトに戻ってしまいます。作業を始める前に右記の設定をする事をお薦めします。

注意

図1

画像の上に、透明効果を使用したオブジェクト・グラデーションメッシュオブジェクト・テキストオブジェクトを作成。
上記設定を行った正しい出力結果。

上記設定を行わなかったため、低解像度化してしまった出力結果。

図2

オブジェクトを選択後、[オブジェクト]→[透明部分を分割]を選択。[透明部分を分割]ボックスで設定した値での出力結果が予想できます。

Illustrator 10.0.3J使用時、上記の設定がされていないと、出力の際オブジェクトが粗くなったりテキストがラスタライズされてしまう等の問題が発生してしまいます(図1参照)。但しこの設定はあくまでも最低値であり、必ずしも出力を保証する物ではありません。[透明部分を分割]機能(図2参照)を使用すると、出力結果が予測できます。確認の上設定を行うことをお薦めします。

グラデーションメッシュの解像度 (10.0.3J)

『書類設定』で『グラデーションメッシュ』を350ppiに設定する。

1.対象となるIllustratorファイルを広げた後に
[ファイル]
↓
[書類設定]
を選択します。

2.[書類設定]ボックスで、下記の設定を行ってください。

[プリント・データ書き出し]では
[グラデーションメッシュの解像度]350ppiに
設定してください。

3.最後にIllustratorファイルを、再保存して終了です。

注意 新規でファイルを作成する時、設定がデフォルトに戻ってしまいます。作業を始める前に右記の設定をする事をお薦めします。

注意

図1

画像の上に、透明効果を使用したオブジェクト・グラデーションメッシュオブジェクト・テキストオブジェクトを作成。
上記設定を行った正しい出力結果。

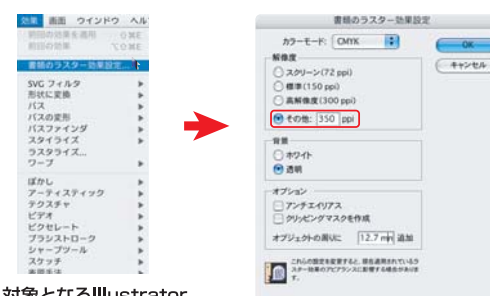
上記設定を行わなかったため、低解像度化してしまった出力結果。

図2

オブジェクトを選択後、[オブジェクト]→[透明部分を分割]を選択。[透明部分を分割]ボックスで設定した値での出力結果が予想できます。

Illustrator 10.0.3J使用時、上記の設定がされていないと、出力の際オブジェクトが粗くなったりテキストがラスタライズされてしまう等の問題が発生してしまいます（図1参照）。但しこの設定はあくまでも最低値であり、必ずしも出力を保証する物ではありません。[透明部分を分割]機能（図2参照）を使用すると、出力結果が予測できます。確認の上設定を行うことをお薦めします。

効果メニュー (10.0.3J)

『効果』メニューの『書類のラスター効果設定』の解像度を350ppiに設定する

1. 対象となるIllustratorファイルを広げた後に
[効果]
↓
[書類のラスター効果設定]
を選択します。

2.[書類のラスター効果設定]ボックスで上記のように[解像度]を[その他(350ppi)]に設定してください。

3.解像度設定を変更した際に、一部の機能で効果を維持できない（アピアランスを再設定してしまう）ものがあります、確認の上、修正してください。

例

[書類のラスター効果設定-解像度]を72ppiで設定、[ぼかし(ガウス)]を適用

[書類のラスター効果設定-解像度]を350ppiで再設定

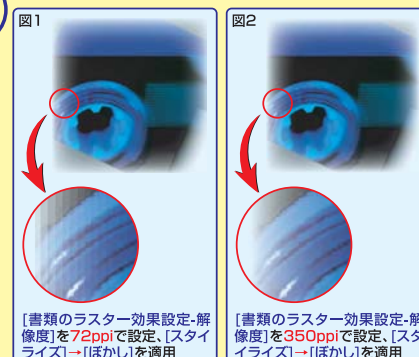
上記3で示した、解像度設定変更の際に効果を維持できない一例です。これは、[書類のラスター効果設定-解像度]をデフォルトの72ppiで設定し、長方形オブジェクトに、[効果]→[ぼかし]→[ぼかし(ガウス)]を適用、その後[書類のラスター効果設定-解像度]を350ppiに再設定した物です。このように解像度に依存する効果は、再設定の際に効果を維持できません。

注意

図1

[書類のラスター効果設定-解像度]を72ppiで設定、[スタイライズ]→[ぼかし]を適用

図2

[書類のラスター効果設定-解像度]を350ppiで設定、[スタイライズ]→[ぼかし]を適用

左の図は、[書類のラスター効果設定-解像度]を、デフォルトの72ppi(図1)と350ppi(図2)でそれぞれ設定し、[効果]→[スタイライズ]→[ぼかし]を適用した物です。
72ppiで設定した画像は、ボケ足が低解像度化しているのが分かります。このように[書類のラスター効果設定-解像度]を低く設定しますと、出力の際には低解像度のまま出力されてしまいます。
また、[書類のラスター効果設定-解像度]を変更することで、上記(例)にもあるように、Illustratorはアピアランスを再設定してしまう事があります。この際に、Illustratorがアピアランスの再設定に失敗することもありますので、書類作成の際には、最初にこの設定を行うことをお薦めします。

JMPAカラー準拠フルデータ制作ルール（Photoshop編）

Photoshop

□カラーモード

CMYK、グレースケール、モノクロ2階調を使用する。

□画像解像度

多値画像は最終出力解像度が290～450dpi、
二値画像は1000～3000dpiにする。
拡大縮小率は多値、二値画像共に80～120%とする。

□クリッピングパス

クリッピングパスの平滑度は、0.2デバイスピクセルに設定する。

□ICCプロファイル

ICCプロファイルの埋め込みはしない。

□画像データのフォーマット形式

画像データのフォーマットは、EPSまたはTIFFまたはPSD
（Photoshopネイティブ形式）を使用する。
各形式は以下のルールに従い、適切に使用する。

<< EPS形式 >>

□エンコーディング

エンコーディングは、ASCII85 を選択する。（CS2、CS）
エンコーディングは、ASCII を選択する。
（7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、4.0.1J）
※エンコーディング JPEG 保存（画像圧縮）およびバイナリ保存は不可。

□ポストスクリプトカラー管理

『ポストスクリプトカラー管理』のチェックを外す。

□スクリーンパラメータ

『EPS オプション』の『ハーフトーンスクリーンを含める』の
チェックを外す。（CS2、CS）
『プリントプレビュー』の『スクリーン』の『プリンタ初期設定値を使う』に
チェックを入れる。（CS2、CS）
『EPS オプション』の『ハーフトーンスクリーン情報を含める』のチェックを外す。
（7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、4.0.1J）
『用紙設定』の『ハーフトーンスクリーン』の『プリンタ初期設定値を使う』に
チェックを入れる。（7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、4.0.1J）

□トランスファ関数

トランスファ関数の埋め込みはしない。

<<TIFF形式 >>

□レイヤー

レイヤーは統合する

□画像圧縮

保存時のオプションで、画像圧縮は『なし』または『LZW』または『ZIP』を
選択する。　※ JPEG 圧縮は不可。

<<PSD形式 >>

□アプリケーションのバージョン

使用アプリケーションのバージョンがIllustrator/Photoshopともに、CS2または
CSの場合に限り、PSD（Photoshopネイティブ）形式の使用可。

□レイヤー

レイヤーは統合する。
※ Photoshop 上で文字を扱う場合は、文字が 350dpi でラスタライズされ、
がたつきが生じる恐れがありますのでご注意ください。

◇画像のトリミングに関しての注意事項

マスク処理されて隠れている範囲が大きい画像データは、不必要にデータが重く
なり、作業効率が低下します。画像データはPhotoshopで適切な範囲にトリミン
グし、データを軽くした上でIllustratorに配置することを推奨。
※トリミングの目安としては、総面積比の200%程度までとする。

カラーモード

CMYK、グレースケール、モノクロ2階調を使用する。

◎以下を参照し、RGB モードの画像は CMYK モードに変換してください。

1.対象画像を開けた後に
[イメージ]
↓
[モード]
↓
[CMYKカラー]
を選択します。

2.この時,RGBとCMYKの色域(表現できる色の範囲)の違いから、色味が変化してしまいます。画像を充分に確認して、保存してください。

画像データ修正後は、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データを更新。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを張り直して(埋め込み直して)保存してください。

注意 PhotoshopでRGBモードの画像をCMYKモードに変換すると、色味が変化してくすんだような色になってしまう事があります。これはRGBで表現できる色の範囲よりCMYKで表現できる色の範囲が狭いため、RGB画像をCMYKに変換する時、Photoshopの[CMYK設定](下図参照)を使ってCMYKで表現した場合にいちばん近い色に変換しているのです。近い色といってもCMYKでは彩度の高い色を表現することができないため、くすんだような色になってしまうのです。

Photoshop CS8.0.1J使用時

1.[編集]
↓
[カラー設定]
を選択します。

2.[カラー設定]ボックスで、[作業スペース]内の[CMYK]から、[カスタムCMYK]を選択。

RGB画像をCMYKに変換する時、この[CMYK設定]([カスタムCMYK])ボックスで変換の設定ができます。但し、画像に合った正しい設定を行うには、製版知識が必要となります。製版会社等に依頼するか、新たにスキャニングし直すことをお薦めします。

ここに掲載した[CMYK設定]([カスタムCMYK])ボックスの設定値は、デフォルト値であって、この設定での変換を保証する物ではありません。

画像解像度

多値画像は最終出力解像度が290〜450dpi、二値画像は1000〜3000dpiにする。拡大縮小率は多値、二値画像共に80〜120%とする。

画像解像度500dpi・50%縮小配置時の修正方法。

Illustratorでの拡縮を確認(CS 11.0.1J 使用時)

1.ウィンドウ上の[リンク]パレットから[情報]を選択します。

2.[リンク情報]ボックスの[変形:拡大・縮小(横/縦)]で拡縮率(%)を確認します。

注意 画像埋め込み時は、%表示が変わります。これは72dpiでの拡縮率を表示するからです。画像をリンク配置に置き換えて拡縮率は確認してください。

Photoshopでリサイズ

1.[イメージ]
↓
[画像解像度]
を選択します。

2.[画像解像度]ボックスで[画像の再サンプル]をチェックし、[ピクセル数]の[幅]・[高さ]の単位を[%]にします。

3.上記方法で確認した拡縮率(%)を入力します。(拡縮率が割り切れない時、数字が微妙に変化します。)

4.解像度を入力します。その時、先ほど入力した%表示が、変わりますがそのままOKを選択してください。

5.画像は必ず名前を変更して保存してください。

リサイズした画像を、Illustratorで原寸再配置します。この時、リサイズ時の誤差がある為、微調整が必要な場合もあります。

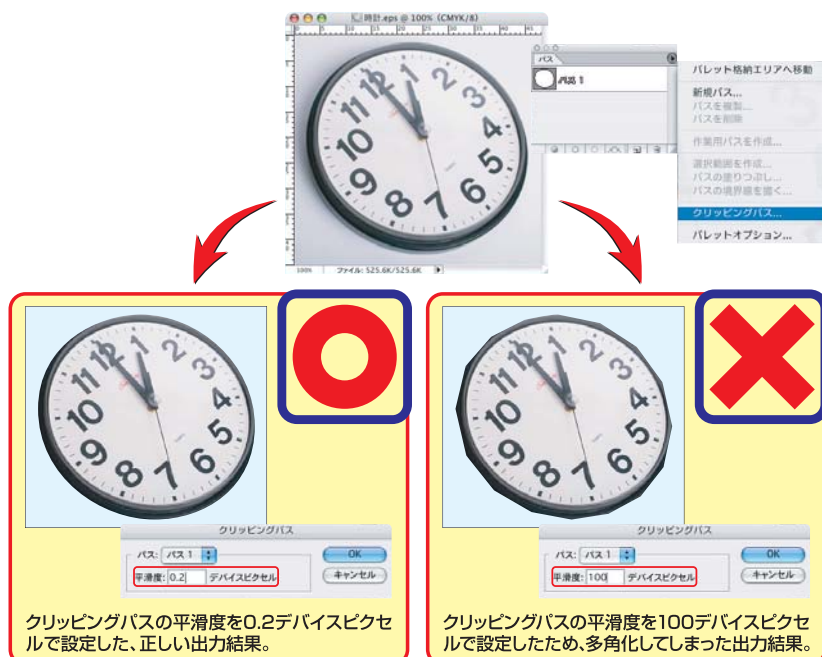
注意 画像をリサイズする事で、線切れ・モアレ等を引き起こす要因になる事もあります。最終データでの品質確認をする事をお薦めします。

注意 リサイズ時、低解像度の画像データをリサイズしても、印刷した場合ぼけた画像になってしまいます。新たにスキャニングし直す事をお薦めします。また、低解像度データで了承を受けている・この画像しか入手できない等の理由がある場合は、入稿仕様書にその旨を明記してください。

クリッピングパス

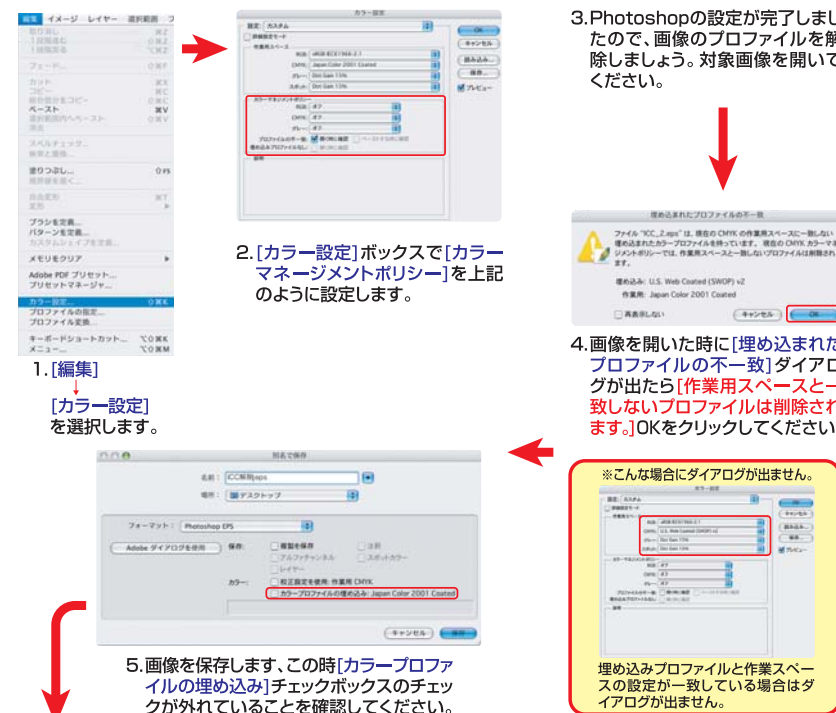
クリッピングパスの平滑度は0.2デバイスピクセルに設定する。

クリッピングパスの平滑度を0.2デバイスピクセルで設定した、正しい出力結果。

クリッピングパスの平滑度を100デバイスピクセルで設定したため、多角化してしまった出力結果。

注意 画像データ修正後は、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データも更新してください。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して保存してください。

注意 PostScriptの場合、パスの曲線部分は、RIP時に直線の集まりに変換しますが、その時にこの平滑度の数値を参照して演算します。「プリンタの解像度÷平滑度＝出力解像度」となります。例えば、平滑度を100と設定した場合、「プリンタの解像度÷100＝出力解像度」となりますから、プリンタの解像度が2400dpiであった場合、出力解像度は24dpiとなってしまい、RIPが曲線を直線に変換する際の最小単位を24dpiとして計算するため、多角化が起こってしまいます。

ICC プロファイル Photoshop CS2 (9.0.xJ)

ICCプロファイルの埋め込みはしない。

1.[編集]→[カラー設定]を選択します。

2.[カラー設定]ボックスで[カラーマネージメントポリシー]を上記のように設定します。

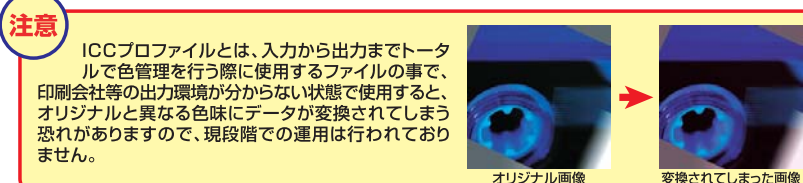
3.Photoshopの設定が完了しましたので、画像のプロファイルを解除しましょう。対象画像を開いてください。

4.画像を開いた時に[埋め込まれたプロファイルの不一致]ダイアログが出たら[作業用スペースと一致しないプロファイルは削除されます。]OKをクリックしてください。

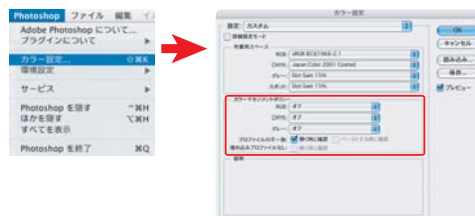
※こんな場合にダイアログが出ません。

埋め込みプロファイルと作業スペースの設定が一致している場合はダイアログが出ません。

5.画像を保存します、この時[カラープロファイルの埋め込み]チェックボックスのチェックが外れていることを確認してください。

6.画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを張り直して（埋め込み直して）保存してください。

注意 ICCプロファイルとは、入力から出力までトータルで色管理を行う際に使用するファイルの事で、印刷会社等の出力環境が分からない状態で使用すると、オリジナルと異なる色味にデータが変換されてしまう恐れがありますので、現段階での運用は行われておりません。

ICC プロファイル Photoshop CS (8.0.1J)

ICCプロファイルの埋め込みはしない。

1. [Photoshop] ↓ [カラー設定] を選択します。

2. [カラー設定] ボックスで [カラーマネージメントポリシー] を上記のように設定します。

3. Photoshopの設定が完了しましたので、画像のプロファイルを解除しましょう。対象画像を開いてください。

4. 画像を開いた時に [埋め込まれたプロファイルの不一致] ダイアログが出たら [作業用スペースと一致しないプロファイルは削除されます。] OKをクリックしてください。

5. 画像を保存します、この時 [カラープロファイルの埋め込み] チェックボックスのチェックが外れていることを確認してください。

※こんな場合にダイアログが出ません。

埋め込みプロファイルと作業スペースの設定が一致している場合はダイアログが出ません。

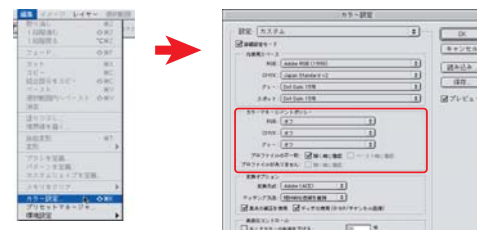
6. 画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して（埋め込み直して）保存してください。

注意

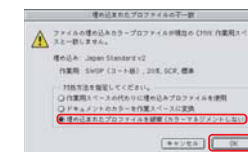
ICCプロファイルとは、入力から出力までトータルで色管理を行う際に使用するファイルのことで、雑誌広告の場合、印刷会社等の出力環境が特定できない状態で使用すると、オリジナルと異なる色味にデータが変換されてしまう恐れがありますので、使用できません。

オリジナル画像　変換されてしまった画像

ICCプロファイル Photoshop (7.0.1J、6.0.1J)

ICCプロファイルの埋め込みはしない。

1. [編集] ↓ [カラー設定] を選択します。

2. [カラー設定] ボックスで [カラーマネージメントポリシー] を上記のように設定します。

3. Photoshopの設定が完了しましたので、画像のプロファイルを解除しましょう。対象画像を開いてください。

4. 画像を開いた時に [埋め込まれたプロファイルの不一致] ダイアログが出たら [埋め込まれたプロファイルを破棄（カラーマネジメントしない）] を選択、OKをクリックしてください。

5. 画像を保存します、この時 [カラープロファイルの埋め込み] チェックボックスのチェックが外れていることを確認してください。

※こんな場合にダイアログが出ません。

作業用スペースの設定が一致している場合ダイアログは出ません。

6. 画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して（埋め込み直して）保存してください。

注意

ICCプロファイルとは、入力から出力までトータルで色管理を行う際に使用するファイルのことで、雑誌広告の場合、印刷会社等の出力環境が特定できない状態で使用すると、オリジナルと異なる色味にデータが変換されてしまう恐れがありますので、使用できません。

オリジナル画像　変換されてしまった画像

ICCプロファイル Photoshop (5.5J、5.0.2J)

ICCプロファイルの埋め込みはしない。

6. 画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して（埋め込み直して）保存してください。

注意

ICCプロファイルとは、入力から出力までトータルで色管理を行う際に使用するファイルのことで、雑誌広告の場合、印刷会社等の出力環境が特定できない状態で使用すると、オリジナルと異なる色味にデータが変換されてしまう恐れがありますので、使用できません。

オリジナル画像　→　変換されてしまった画像

<<EPS 形式>> エンコーディング PhotoshopCS2 (9.0.xJ) PhotoshopCS (8.0.1J)

エンコーディングは、ASCII85を選択する。(CS2、CS)

3. 画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して（埋め込み直して）保存してください。

注意

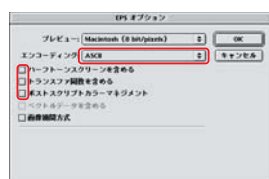
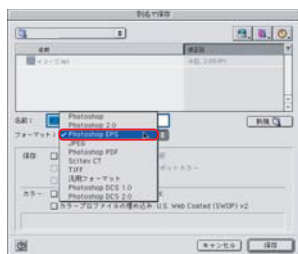
IllustratorCS2、CSに配置する画像は、Photoshopのバージョンによってそれぞれ保存形式が異なります。IllustratorとPhotoshopのバージョンを確認し、正しい保存形式に変換してください。

参考

<<EPS 形式 >>

エンコーディング Photoshop (7.0.1J, 6.0.1J, 5.5J, 5.0.2J, 4.0.1J)

エンコーディングは、ASCIIを選択する。
（7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、4.0.1J）

1.対象画像を開いたら、[別名で保存]を選択。[別名で保存]ボックスで、[Photoshop EPS]を選択してください。

2.[EPSオプション]ボックスで、上記のように設定してください。[プレビュー]は特に規定はありません。

3.画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを張り直して（埋め込み直して）保存してください。

IllustratorCS2、CSに配置する画像は、Photoshopのバージョンによってそれぞれ保存形式が異なります。IllustratorとPhotoshopのバージョンを確認し、正しい保存形式に変換してください。

参考

EPS-ASCII形式 ○
ASCIIコードはコンピュータ用のコード体系としてもっとも普及しており、UNIXベースとなったOSX環境では安定した出力が可能となっています。　EPS-バイナリ形式に比べ、データ容量が約2倍になってしまうというデメリットもありますが、IllustratorCSに配置する場合の準推奨フォーマットです。

TIFF形式 ○
EPSと並んで最終的に印刷物として使用する画像の標準的なフォーマット。EPSよりもデータ容量が少なく、LZW圧縮やZIP圧縮が可能なため、ファイルサイズがかなり小さくできます

Photoshop形式 ×
レイヤーを残して保存できるなど、制作過程ではメリットも多いフォーマットですが、新機能の情報を保持したまま保存できるため、下位バージョンで開いた場合、トラブルが起きる可能性もあります。そのため、本ガイドではIllustrator/PhotoshopともにCSの場合に限り、使用可としています。

EPS-バイナリ形式 ×
OS9環境までは、もっとも安定した標準的なフォーマットとして知られていましたが、UNIXベースとなったOSX環境で、IllustratorCSに配置した場合、ポストスクリプトエラーなど出力時におけるトラブルの報告も受けています。

EPS-JPEG形式 ×
上記EPS-ASCII形式と同じEPS形式なのですが、JPEG圧縮されているため、対応RIPがないと出力できません。加えて非可逆圧縮（圧縮すると画像は劣化し、圧縮前の画像は再現出来ない）のため、再保存毎に画像が劣化してしまいます。

JPEG形式 ×
WebやMicrosoft Office等で使用されますが、製版データでは使用禁止です。

<<EPS 形式 >>

ポストスクリプトカラー管理

『ポストスクリプトカラー管理』のチェックを外す。

1.EPS保存時の[EPSオプション]ボックスで、[ポストスクリプトカラーマネジメント]のチェックを外し、画像を再保存してください。

2.画像データ修正後は、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データを更新してください。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して（埋め込み直して）保存してください。

注意

[ポストスクリプトカラーマネジメント]は、チェックが外れていることがあります。それはファイルの保存時に指定した値（オンかオフ）が反映されるのではなく、アプリケーションで一番最後にEPS保存を行ったときに指定した値が反映されるからです。

注意

ポストスクリプトカラーマネジメント（ポストスクリプトカラー管理）

ポストスクリプトカラーマネジメントは、モニタおよびプリンタのプロファイル情報をEPS画像ファイルに埋め込み、特定の出力機を指定することができます。この情報がプロファイルに指定された以外の出力機で出力すると、画像はオリジナルと異なる色味にデータが変換されてしまう恐れがあるので、使用しないでください。

<<EPS 形式 >> スクリーンパラメータ PhotoshopCS2 (9.0.xJ) PhotoshopCS (8.0.1J)

『EPS オプション』の『ハーフトーンスクリーンを含める』のチェックを外す。(CS2、CS)

『プリントプレビュー』の『スクリーン』の『プリンタ初期設定を使う』にチェックを入れる。(CS2、CS)

[ハーフトーンスクリーンを含める]を選択したため、モアレが起きてしまった。

[ハーフトーンスクリーンを含める]の選択を外した、正常な出力。

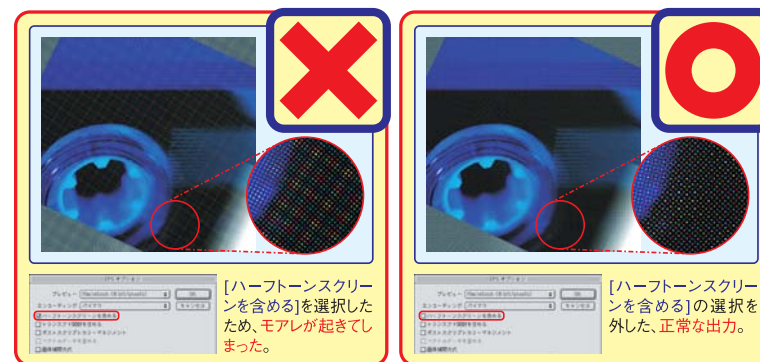
[ハーフトーンスクリーンを含める]のチェックを外し、データ保存後は、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データを更新してください。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して(埋め込み直して)保存してください。

参考 ハーフトーンスクリーンとは、スクリーン線数・網点角度・網点形状の事を言います。
Photoshop上でハーフトーンスクリーンを設定する事で、その画像にのみ別のスクリーン線数・網点角度・網点形状を設定できます。但し出力機側の設定によって、ハーフトーンスクリーンは有効・無効になってしまい、意図した出力結果が得られません。

1. [ファイル] ↓ [プリントプレビュー] を選択します。
2. [出力]を表示し [スクリーン(ハーフトーンスクリーン)] を選択します。
3. [ハーフトーンスクリーン]
4. [ハーフトーンスクリーン]ボックスの[プリンタの初期設定スクリーンを使用]のチェックを外す事で、CMYK各版の線数・角度・網点形状が設定できます。

<<EPS 形式 >> スクリーンパラメータ Photoshop(7.0.1J, 6.0.1J, 5.5J, 5.0.2J, 4.0.1J)

『EPS オプション』の『ハーフトーンスクリーン情報を含める』のチェックを外す。
(7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、4.0.1J)

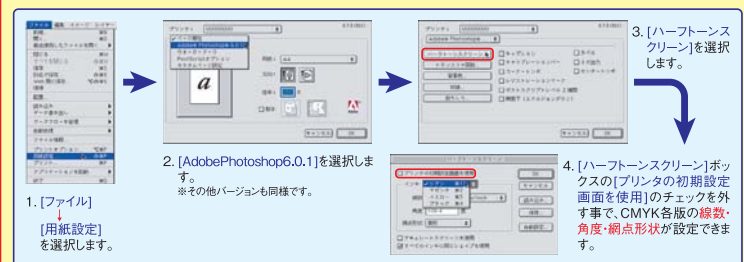
『用紙設定』の『ハーフトーンスクリーン』の『プリンタ初期設定を使う』にチェックを入れる。
(7.0.1J、6.0.1J、5.5J、5.0.2J、4.0.1J)

[ハーフトーンスクリーンを含める]を選択したため、モアレが起きてしまった。

[ハーフトーンスクリーンを含める]の選択を外した、正常な出力。

[ハーフトーンスクリーンを含める]のチェックを外し、データ保存後は、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データを更新してください。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して(埋め込み直して)保存してください。

参考 ハーフトーンスクリーンとは、スクリーン線数・網点角度・網点形状のことを言います。
Photoshop上でハーフトーンスクリーンを設定することで、その画像にのみ別のスクリーン線数・網点角度・網点形状を設定できます。但し出力機側の設定によって、ハーフトーンスクリーンは有効・無効になってしまい、意図した出力結果が得られません。

1. [ファイル] ↓ [用紙設定] を選択します。
2. [AdobePhotoshop6.0.1]を選択します。
※その他バージョンも同様です。
3. [ハーフトーンスクリーン]を選択します。
4. [ハーフトーンスクリーン]ボックスの[プリンタの初期設定画面を使用]のチェックを外す事で、CMYK各版の線数・角度・網点形状が設定できます。

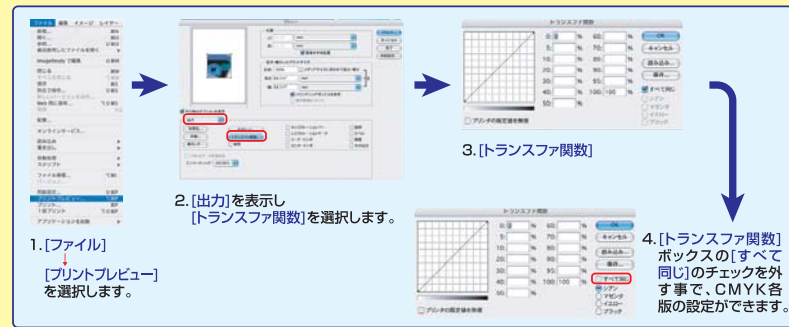
<<EPS 形式 >>
トランスファ関数

トランスファ関数の埋め込みはしない。

1.EPS保存時の[EPSオプション]ボックスで、[トランスファ関数を含める]のチェックを外し、画像を再保存してください。

2.画像データ修正後は、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データを更新してください。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを貼り直して（埋め込み直して）保存してください。

注意

トランスファ関数を含める（トランスファ関数を含む）

トランスファ関数とは、画像がフィルムに出力される時に発生するドットゲインやドットロスの補正に使用します。トランスファ関数を使用して、画像とフィルム間の色の誤差を補正できますが、印刷会社等の出力環境が分からない状態で使用すると、オリジナルと異なる色味にデータが変換されてしまう恐れがあるので、使用しないでください。

1.[ファイル]
↓
[プリントプレビュー]
を選択します。

2.[出力]を表示し
[トランスファ関数]を選択します。

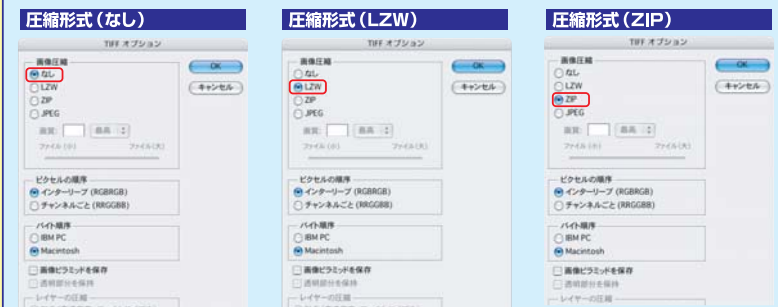
3.[トランスファ関数]

4.[トランスファ関数]ボックスの[すべて同じ]のチェックを外す事で、CMYK各版の設定ができます。

<<TIFF 形式 >>
画像圧縮

保存時のオプションで、画像圧縮は『なし』 または『LZW』 または『ZIP』 を選択する。
※ JPEG 圧縮は不可。

1.対象画像を開いたら、
[保存]か[別名保存]を選択してください。

2.[保存]ボックスで、[TIFF]を選択してください。

3.TIFF保存時のオプションで、画像形式は「なし」「LZW」「ZIP」の画像圧縮形式を選択してください。

又、「JPEG」圧縮は不可です。

4.画像データは修正されましたが、Illustrator等のレイアウトデータ内に含まれている画像データはまだ更新されていません。画像が配置されているレイアウトデータを開き、リンクを張り直して（埋め込み直して）保存してください。

<<TIFF 形式および PSD 形式 >>
レイヤー

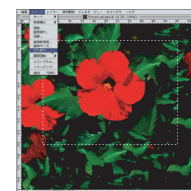
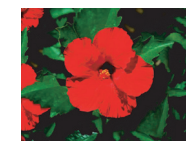
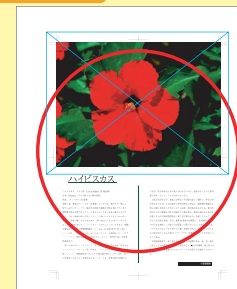
レイヤーは統合する。

※ Photoshop 上で文字を扱う場合は、文字が 350dpi でラスタライズされ、がたつきが生じる恐れがありますのでご注意ください。

<<PSD 形式 >>
アプリケーションのバージョン

使用アプリケーションのバージョンが Illustrator ／ Photoshop ともに、CS2 または CS の場合に限り、PSD（Photoshop ネイティブ）形式の使用可。

画像のトリミングに関しての注意事項

画像は適切な範囲でトリミングすることを推奨。

画像を切り抜く範囲を選択し、
[イメージ]→[切り抜き] を選択する。

トリミングされた軽いデータ

【雑誌広告デジタル送稿】
「JMPAカラー準拠フルデータ」デジタル制作ガイド
Mac OS X / Illustrator CS2（12.0.xJ）対応版

2006年5月1日 改訂
2007年4月1日 改訂
雑誌広告デジタル送稿推進協議会

本制作ガイドに関するお問い合わせ

（社）日本雑誌協会　http://www.j-magazine.or.jp
（社）日本雑誌広告協会　http://www.zakko.or.jp
（社）日本広告業協会　http://www.jaaa.ne.jp

<注意事項>
■ 本制作ガイドの一部または全部を雑誌広告デジタル送稿推進協議会の事前承諾なしに改編することを禁じます。
■ 本制作ガイドに記載された内容は送稿データまでの運用情報の提供を目的としておりますが、予告なしに変更されることがあります。
■ 国内で発行される雑誌における、雑誌広告専用の送稿データは、CMYK データのみです(RGB データは一切不可)。
従って、送稿データ作成のガイドとして、画像データに関する記述・表示はCMYK を基準として解説しています。
■ 本制作ガイドにはPhotoshop 編がありますが、これはあくまでも画像処理の完了している送稿用データを保存する場合の解説であることをご了承ください。
■ 雑誌広告のデジタル送稿推進を目的に作成された本制作ガイドは、雑誌広告専用の仕様および内容となっています。
他の媒体でのご使用は出来ませんので充分ご注意ください。